

小學地理教師用卷
發行所 教育圖書公司

348

021966-000-8

特26-577

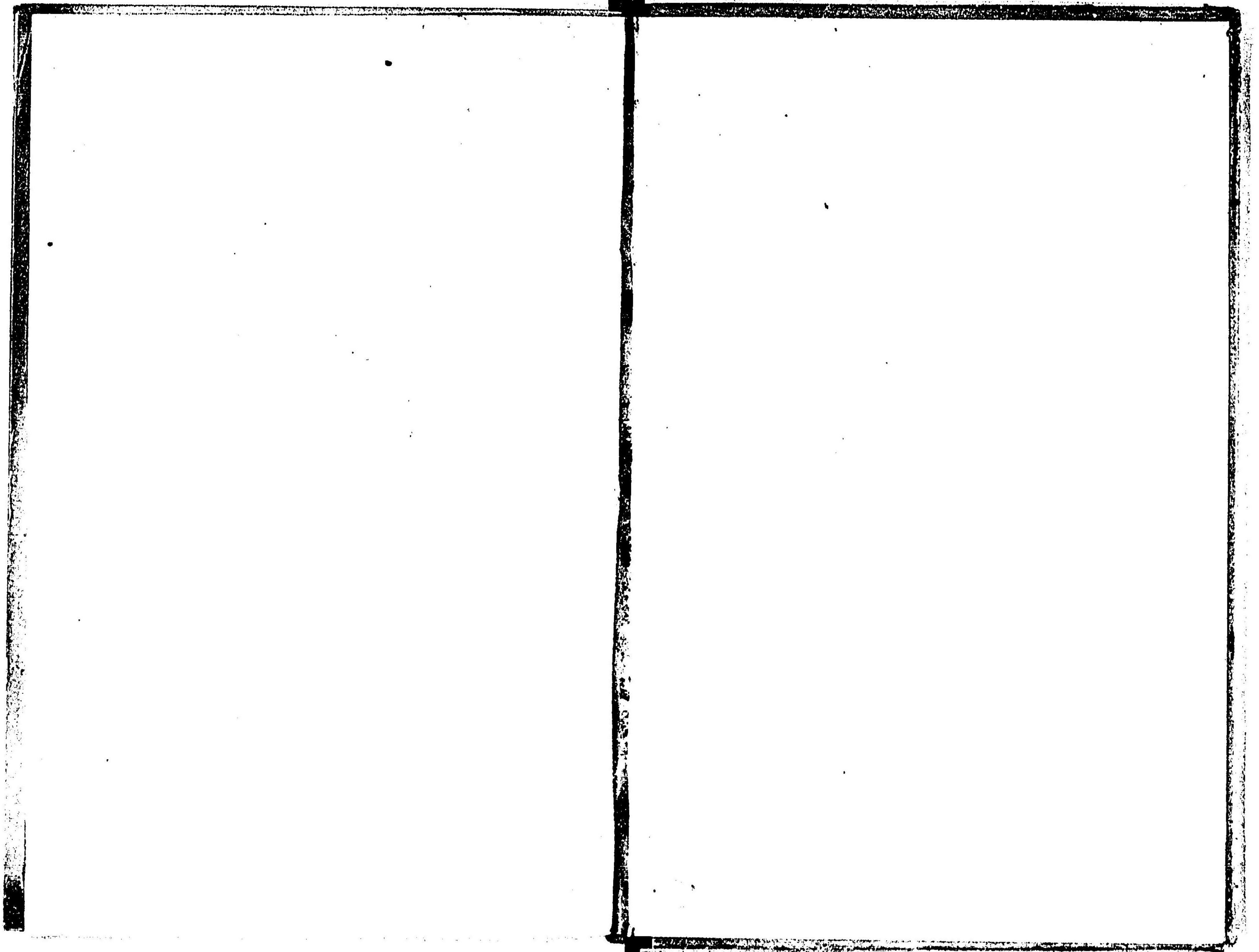
小学地理 教師用卷1

教育圖書

M37

ADA-0216





特26
577

發行所
小學

教育圖書合資會社

地理

教師用

卷一

明治
18742
内交

小學地理 教師用卷一

緒言

一、本書は國定小學地理書の教材を敷衍したるものなり。此書に
よるときは、教授者は他に多くの参考書を要せずして、完全なる
教授を爲し得べし。

一、本書は毎課を主眼、教材、設問、注意の四項に分ちたり、
主眼の部には、該課教授の主要點を示し、

教材の部には、科書の教材を方法的順序に説明敷衍し、
設問の部には、教授の要點を示し、

注意の部には、教授上殊に注意すべき要點を示したり。

一、國定地理書は、純然たる分解的方法によりて編纂せられしもの

なるを以て、各地方の纏まりたる知識を與ふるに不便なり。故に本書は、各地方の終りに、各地方の總括を附せし故、適宜時間を割きて教授せんことを要す。

一 高等第一學年の初期に於ては、郷土地理の漠然たる觀念を整頓する爲めに數時間を要し、次に本書の教授に移るべし。

一 教授すべき順序は成るべく、各地方を出發點とするを可とす。

されば、科書の順序の或部分を變更するが如きは、地方によりて必要を見るべし。例へば奥羽地にては關東地方を後にし、先奥羽地方より初むるが如し。

小學地理 教師用 卷一

教育圖書合資會社編輯所編

第一 總論

主眼

我國の成立、境域、廣袤、人口、行政上の區劃、自然的區劃等につきて大要を述べ、本邦に關する漠然たる觀念を與へ、以て本邦地理を學ぶ基礎となさんとす。

教材

我が大日本帝國は、亞細亞洲の東部に位し、古來日東にあるの故を以て、國號を日本と名づけたるものなり。大小四千の島嶼より成

る。其中にて殊に大なるは、本州にして面積一萬四千五百方里、全國の中部に位し、之より東北及西南に幾多の島嶼七、五、三、繩ななつづなの如く相連れり。四國は本州西部の南にありて、形蝙蝠の如く、面積一千百五十方里あり。九州は四國の西にありて、形猿の舞ふが如く、面積二千三百餘方里あり。北海道本島は一に北州島といひ、本州の北にありて、形赤鯉の如く、面積五千餘方里あり。又、臺灣は明治二十七八年戰役の結果清國より割取せし領土にして、面積殆んど九州に等しく、我國の最南部に位し、形木葉の如し。以上五島を稱して、我國の五大島と稱す。北海道本島の東北には千島の三十二島、飛石の如く連りて、露領カムチヤツカに近づけり。九州と臺灣との間には琉球の五十五島亦飛石の如く相連れり。千島のはてより臺灣のはて迄は、凡一千二百里あり。

我國の東より南にかけては、世界にて尤も廣き太平洋あり。太平洋を隔て、遠く東の方には、亞米利加合衆國、加那陀等の諸國あり。北海道本島の東北にはオホーツク海あり。本州の西北には日本海あり。九州の西南には東支那海あり。我國はオホーツク海、日本海を隔て、露領西伯利亞及韓國に向ひ、東支那海を隔て、は清國に對す。又臺灣の南には亞米利加合衆國に屬する比律賓群島あり。(主として教科書の文に依る)

我國の面積は二萬七千方里、住民五千萬に及び一方里の密度一千七百に達し、世界中尤も稠密なるものなり。而して、關東地方尤も密に、北海道及本州東北部の地方尤も疎なり。之等の人民は上に萬世一系の天皇を戴き、忠君愛國の念に富み、樂しく、其の日を送れり。

我國は行政上の便利をはかり、北海道本島、千島、臺灣を除き、其他を東京、京都、大阪の三府并に四十三縣に分てり。府縣の下には市、郡あり、郡の下には町、村あり。府には府廳、縣には縣廳、郡には郡役所、市には市役所、町及村には町、村役場あり。而してそれ〴〵府知事、縣知事、郡長、町長、村長等之を管理せり。又北海道本島と千島とを北海道といひ、北海道廳を置き、其下に三區、十八支廳を置きて治む。臺灣には臺灣總督府を置き、二十廳を其下に置きて治む。此外我國の分ち方に、臺灣を別にし、畿内と、東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、西海、北海の八道に分ち、更に之を八十五國に分つことあり。此區劃法は昔、天皇、居坐の地を畿内といひ、之を中心として、其地勢、人情等の相似たるものを、一まとめにしたるものにして、今日の實際生活には何等の關係あることなし。

本州は五大島中、尤も大なるものにして、中に畿内と、東海、東山、北陸、山陰、山陽の五道と、南海道の一部とあり。之を地勢、風俗、人情、其他諸般の關係相似たるものを、一まとめとして、關東、奥羽、本州中部、近畿、中國の五地方に分つ。之に四國、九州、北海道、臺灣を加へて、全國を九地方とす。各地方は更に府、縣、道、廳等に分る。

主要なる設問

五大島の面積比較并に地形、

我國の地形、

我國の位置、人口及密度、

我國の行政區劃、

昔時の區劃法、

教授上の注意

一、五大島及全國の地形は、それ〴〵類似の形體物を捉へ來りて教

授すべし。

一我國の位置を説くに當りては、商業上、軍事上、實に最要部を占めたることを了解せしめ、以て天與の好位置を利用するの精神を涵養すべし。

一我國皇室の神聖を説き、かゝるめてたき皇室を戴く國民の幸福に及ぼし、以て忠君愛國の志想を養ふことを力むべし。

一日本全國の概念を與ふるには、成るべく尋常小學にて學びたる讀書科の材料を基礎とすべし。

第二 關東地方

主眼

關東地方を學ぶに必要なる大体の觀念を與へ、殊に平野の摸式と

しての關東平野を紹介せんとす。

教材

關東八國 關東地方とは、本州の東南低地部にして、所謂關八州の地にして中に、相摸、武藏、安房、上總、下總、常陸、上野、下野の八國あり。之を行政上東京府と、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城の六縣とに分つ。

境界 此の地方は西より北に山岳相連りて、本州中部地方と、奥羽地方とに境せり。乃ち西は富士帶より成れる一連の高地にして、北は阿武隈山脉の南派及中央山脉の支脉、足尾山脉等の相連るあり。東と南とは太平洋に臨み、東南部に房總半島突出して、三浦半島と相對し、東京灣の口を抱けり。東には岩礁多き犬吠岬突出せり。之を以て土地西北に高く、東南に向つて傾斜せり。只僅に

房總半島の南部に丘陵的の高地あるのみ。

かくの如く北は山岳多くして、南は暖かなる黒潮に洗はるゝを以て、氣候概して温暖なりとす。

關東平野 關東には日本第一の廣き平野あり。廣袤五六十里に亘る。之を關東平野といふ。其西南部は所謂武藏野の地にして、四顧渺漠、一山の起伏するものなし。利根川は西北の山地より發して、東南に向ひて此に平野を流れ、全面五十四萬町歩の田園を灌漑し、農産は之が爲めに饒に、運輸と交通の便とを與ふること亦多し。

日本中部に於ける此の大平野は、土地肥沃、作物克く穰るを以て、幾多の生民を吸収し、四近交通の至便は以て、人口稠密を來たしたる所以にして、實に關東平野は東京市を初め幾多の都市を生みたる

母なりと云ふべきなり。

平野の地は米産多く、麥、大豆之に亞げり。又沿海の地は一帶に水産の利に富み、山がりの地方は養蠶の業頗る發達し、殖産上より觀察して全國の一中心たるを失はず。

主要なる設問

關東地方の行政區劃

關東地方の位置、地勢

關東平野の價值

關東平野の産物

關東平野と東京との關係

教授上の注意

一、關東平野の概念を與へ、全地方の各縣別の地理を學ぶ準備となすべし。

一 利根川は關東平野の爲めに貴重なることを知らしめ川と人生との關係の一般を了解せしむべし。

一 昔時の武藏野と今日の東京とを比較對照して話すべし。

一 關東平野と人生との關係に就きては、詳密なる説明を與ふべし。

東京府(武藏の一部及伊豆七島小笠原諸島)

主眼

東京府の地理を説き、殊に百般の中心としての東京市を紹介せんとす。

教材

位置

東京府は我國の首府東京市のある所にして、殆んど全國の中央に當れり、山梨縣との境は山岳連れりと雖も、北、埼玉縣、東、千

葉縣、南、神奈川縣に接するの地は、所謂關東平野の一部にして、土地平坦にして、肥沃なり。

東京市

東京市は關東平野の要地を占め、市街は隅田川に跨り人口凡そ百七十萬、我國第一の大都會にして、又帝國の首府なり。

官城は市の中央にあり。古の江戸城を改築せられたるものにして、二重の城濠あり。正門を二重橋といひ、其の南の門は井伊掃部頭が害せられたる櫻田門なり。其の内外には内閣、宮内省、樞密院、内務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信、帝國議會、議事堂、各國公使館、東京府廳、近衛師團及第一師團司令部等あり。市中には帝國大學を始め、陸軍大學校、海軍大學校、高等師範學校、高等商業學校、高等工業學校、第一高等學校、及び各種の私立大學等あり。名高き社寺は靖國神社、増上寺等にして、名勝は墨堤の櫻、飛鳥山の

櫻園子坂の菊瀧の川の紅葉等にして、又、上野、淺草、芝、日々谷の四大公園あり。中にも、上野及芝公園には徳川將軍の靈廟ありて、轉た行人をして、當時の尊崇を追想せしむ。上野公園には不忍池、帝國圖書館、及帝國博物館等あり。

斯の如く、帝國主要の官衙、學校、其他著名の社寺、名勝多きを以て、貴賤の別なく、老若の差なく、何れも一度此の都に出入するを修行の階段となし、多大の名譽と思惟せるが故に、市街甚だ繁盛にして、人馬絡繹織るが如く、雜鬧を極め、商業は不景氣不知の一大活氣の下に行はれつゝあり。市街は十五區に分ち、市街鐵道、電氣鐵道、馬車鐵道等四通せるを以て交通頗る便利なり。市の産物としては、陶、漆器、袋物等を始めとし、綿糸、和洋紙、海苔等海外輸出品として製作するもの多し。乃ち袋物は古代錦、西陣織、金襴、緞子等を主原料と

し、紙入、葺入、信玄袋等を製作し、其の産額四十萬圓に達し、和洋紙は五百萬圓に達せり。海苔は所謂淺草海苔と稱するものにして、品川より大森邊の海岸に産す。又書籍及新聞雜誌の發行甚だ多く、實に全國出版界の大關たり。

此の地は舊と江戸と稱し、太田道灌始めて此に築く。當時は寂寞たる一寒村にして、道灌が當時の歌に。

我宿は松原つゞき海近く、富士の高根を軒端にぞ見る。

と、以て當時の江戸を想像するに足るべし。徳川氏三百年の覇府を開くに及び、全國の大小名を始め、幾多の士人參勤し、邸宅を構へ、繁盛を極め、明治初年帝都を遷させ玉ひてよりは、日進月歩遂に今日、土一舛金一舛の繁昌を見るに至りしなり。

鐵道 東京より起れる鐵道には、東海道線、甲武線、奥州線、總武線

等あり。東海道線は東京新橋神戸間を往復するものにして、延長哩數三百七十五哩なり。甲武線は東京龜町區飯田町、甲府間を往復し、延長哩數百餘哩あり。奥州線は東京下谷區上野、青森間を往復するものにして、延長哩數四百六十二哩あり。又奥州線と起點を同じくし、埼玉縣大宮より岐れて新潟に通ずる北越線あり。總武線は東京本所區錦糸堀(本所停車場)銚子間を往復するものにして、延長哩數殆んど百哩あり。

多摩川 多摩川は源を甲斐の菩薩峠に發し、日原の地方を過ぎ東京灣に朝す。流程約四十里、河水清澄なるを以て、引いて東京市民の飲料に供す。所謂多摩川上水にして、遠く八王子の北方より堀割工事を施せり。一に調布の玉川といふ。

八王子 八王寺は甲武鐵道の終端驛にして、東京を距る十一里、

甲州街道の要路たり。八王子織物甚だ盛にして、桐生、足利等と共に全國屈指の機業中心地たり。一樂織、風通織は殆んど當地の特産とも稱すべく、其他黒八丈、黄八丈等を産出せり。府下を併て産額貳百五十拾萬圓に達せり。

伊豆七島及小笠原諸島 伊豆七島及小笠原諸島は共に富士帶に屬する火山列島にして、太平洋中にあり、七島とは大島、利島、新島、神津島、式根島、三宅島、及三倉島を云ふ。其他八丈島あり。大島は伊豆半島の東南海中に在りて、周圍三十餘里、人口すべて五千餘、漁業を生業とせり。其の三原山は活火山にして、噴煙の狀伊相安等の海岸より望見するを得べし。

八丈島は東京を距る百六十五哩、周圍十餘里、人口一萬に近く、男子は薪樵、漁獵に従事し、女子は機織、養蠶に従事すと雖も、概して男逸

女勞の風あり。言語、風俗、習慣、内地と異にし、鬮牛の戯行はる、八丈絹、八丈紬は其の主要産物にして、世既に定評あり。小笠原諸島は八丈島を距る百八十湮、大小二十餘の島嶼より成れりと雖も、之を父母、鯉の三群島に分つ。此の諸島は南洋熱帯に近き地にあれども、所謂海洋性の氣候にして、寒暑の差隔甚だしからず。産物には鳳梨、香蕉、椰子、信天翁、蝸龜等熱帯性のもの多し。此の諸島は文祿二年小笠原貞頼の發見したるものにして、當初は無人島なりしも、文久年中、幕府八丈島の住民を此土に移住せしめたりしが、間もなく中絶し、明治八年以來再び移住を力め、今や四千五百餘の人口を有するに至れり。

主要なる設問

東京府の位置及地勢、

東京市繁盛の因由、政治、軍事、經濟、教育等の中心地たる所以、府下の交通、

多摩川の東京府に對する効益、

南洋中にある小笠原諸島の氣候溫暖なる理由、

府下の物産、

東京府より諸地方に出づる鐵路、

教授上の注意

- 一、關東平野及利根川を復習して、本課に入るべし。
- 一、東京市に就きては、平野と都市との關係に着眼せしむべし。
- 一、東京市よりの各鐵道線路は圖解して、丁寧に教授すべし。
- 一、大島及八丈島の風俗と太古の風俗との關係を知らしむべし。
- 一、宮城の寫眞、其他東京市内の名勝の繪畫、及八王子織物、鳳梨、香蕉、蝸龜等の標本を準備すべし。

神奈川縣(武藏の南部及相模)

主眼

神奈川縣の地理を説き、殊に貿易港の摸式としての横濱、軍港の摸式としての横須賀、火山の摸式としての箱根山を紹介せんとす。

教材

位置 神奈川縣は東京府の南に連り、三浦半島南に突出して、東京灣と相模灘とを分つ。山梨縣及静岡縣との境は諸山連りて土地高きも、東及南の地は、關東平野の一部にして、土地開け、地味肥沃なり。

横濱市 横濱市は東京を距る汽車一時間程の地にありて、神奈川縣廳の所在地なり。港内は水深く、本牧（本牧）の岬南に突出して風波

を遮り、大船の繫泊に便なるを以て、安政六年神奈川港を開きて、外國互市場となし、以來、僅に四十年にして、寂寥たる漁村は、今は發展して、人口三十萬を有する本邦第一の開港場となりたり。當港は北、長野、両毛の生糸生産地、及機業地を控へ、西静岡の茶業地に接し、且、東北の鑛業地に近きを以て、生糸羽二重、茶、銅の輸出品尤も多く、一年の額は優に壹億萬圓に上り、本邦輸出總額の半以上を占む。輸入品には砂糖、棉花等あれども、輸出額の六割に當るに過ぎず。市の産物としては漆器、陶器等あり。漆器は横濱漆器と稱し、參拾五萬圓の産額ありて、海外に輸出するもの多し。陶器は太田焼と稱し、拾五萬圓の産額あり。

鐵道 鐵道東海道線は東京より横濱を過ぎ、馬入川を渡りて、國府津に至り、静岡縣に入る、又大船よりは、一支線横須賀線を出し、鎌

倉を買きて、横須賀に至る。

鎌倉 鎌倉は三方山に囲まれ、南の一面海に臨み、七個の切通しを以て、外方と交通するを以て、軍事上要害堅固の地なり。新田義貞が北條氏を亡ぼせし時にも、僅に干潮の時を利用して、海路より打入るを得たるのみなりき。源頼朝幕府を此地に開きしより、其名世に顯はれ、北條氏亡びし後も、關東管領の居を占めし所なりしを以て、神社佛閣を初めとし、歴史上の遺蹟頗る多し。

鶴ヶ岡八幡宮は源氏世々の氏神にして、頼義の勸請せし所なり。鎌倉宮は大塔宮を幽閉せしと傳ふる土窟の傍にあり。建長寺は、鎌倉五山の一にして、禪寺の巨刹なり。當時の大隆的建築の舊觀を有せり。大佛は高德院にあり、建長四年鑄造したるものにして、高さ三丈五尺あり。海嘯のために、今は露佛となれり。

江の嶋は鎌倉の西にあり。周圍半里餘の一小嶋にして、岩石の奇勝多く、日本三辨天の一なり。

横須賀 官線東海道線大船驛より分岐して横須賀に達すべし。此地は我國四軍港の一にして、灣内水深く、後方に山を負ひ、船渠、造船所、海兵團等の設けあり。其東南にある観音崎は富津州と相對し、東京灣を扼す、兩角の間僅に三里を出でず、共に砲臺の設あり。

浦賀 観音崎の西南に浦賀港あり。港内狹しと雖も、海水深くして碇泊に便なり。嘉永六年ペルリの來着して、徳川氏二百餘年の太平の夢を破りし所なり。

相摸の沿岸は砂清く、浪靜にして、且遠淺なるを以て、海水浴に適する地多し。大磯、國府津、小田原の如き之なり。

國府津 は東海道線と街道との支點にあり、鐵道は箱根の嶮

を避くる爲め、路を西北に轉ず。

小田原は後北條氏の舊城下にして、箱根山を負ひて海に臨む、漁業に従事するもの多し。

箱根 箱根は舊噴火山にして、舊火口の直徑大約二三里あり。試に乙女峠に立てば、全山の景様一目の下に集るべし。金時山、鞍掛山等の外輪山は屏風の如く、峙ちて、十數里に亘る大環狀を畫き、二子冠ヶ岳の諸山は舊火口内に屹立し、山中尙硫烟を噴出せり。西方遙に碧水の漫々たるは蘆の湖なり。此は舊火口丘の一部に水の溜りしものにして、湖畔の風光、畫くが如く、逆さま富士の景世に名高し。

箱根山中には温泉數多あり。湯本、塔の澤、宮の下、堂ヶ峰、底倉、木賀、蘆の湯は所謂箱根七湯にして、浴客常に堪へず。

箱根はもと關所のありし所なり。箱根舊道は、湯本より川口に沿ふて上り、火口内に下り、蘆の湖北の箱根宿を過ぎ、更に峠を超へて三島に出づ、此の間八里、箱根八里の嶮と稱す、維新前の東海道の難所なり。箱根宿の東端に關所の跡あり。

主要なる設問

神奈川縣の位置、地勢、

横濱市が急劇の發達をなせし所以、輸出額の多き所以、

縣下の交通、

頼朝が鎌倉に幕府を開きたるは、地勢上如何なる望あるか、

横須賀の好軍港なる地勢上の理由、

浦賀とペルリ來朝との關係、

箱根を噴火山として説明せよ、古來關所を設きたる理由、

縣下の物産都會、

縣下旅行の順序、

教授上の注意

- 一、東京附近の地勢、關東の地勢を復習して本課に入るべし。
- 一、横濱に就きては貿易港の具ふべき要件を知らしむべし。
- 一、輸出入品と吾人の生活との關係を知らしむべし。
- 一、箱根の古來要害なりし理由を語るべし。
- 一、箱根火山を授くるには、摸型を用ふべし。而して後地圖に現さしむべし。
- 一、白地圖に記入せしむべし。

千葉縣(安房、上總、及下總の大部)

主眼

千葉縣の地理を説き、殊に河流の摸式としての利根川、及好漁地と

しての九十九里濱を紹介せんとす。

教材

位置 千葉縣は西武藏、相摸等と共に東京灣を抱ける房總半島の地にして、北は利根川の下流を以て茨木縣に接し、埼玉縣及東京府との境界は江戸川を以て限れり。北部は關東平野の一部をなし、土地低く、且つ平らかなれども、南部安房、上總の國境には鋸山脉ありて、丘陵起伏し土地稍高し。

利根川 利根川は關東第一の大河にして、坂東太郎の稱あり。源を下野に發し、幾多の支流を合せて益大となり、本縣の北を限りて銚子港に注ぐ。流程七十餘里、江戸川は其の支流にして、東京市の東を流れ、東京灣に注ぐ。此の河の流路は古來一定せず、屢河道を變ぜり。今日の如く銚子港に注ぐは享保以來のことなりとい

ふ。水量多く、坦々たる關東平野の中央を汪洋として流るゝが故に、水勢緩く、流域五十餘萬町歩の田園を濕ふし、吐口より關宿に至るの間、漁船の往來あり。實に漕漈、運輸交通の便に富める良河なり。肥沃なる關東平野は此川の沖積土より成り、同平野の農産は之がために饒多に、幾多の市邑は之がために發達し、交通運輸の便を助くる等殆んど河流としての性格の全部を具備したるものにして、關東の大動脈と云つべきなり。

味淋の産地なる流山、醬油の産地なる野田は共に江戸川の邊りにあり。流山の味淋は品質良好を以て聞え、四拾餘萬圓の産額あり。又、野田の醬油は色の濃厚なると、永く貯藏に適するとを以て、弊價を有し、縣下を通じて四百餘萬圓の産額あり。販路は東京を中心として、其の近在及關西地方に勢力を有し、近來米國へも輸出の道

開け、益盛大に赴きつゝあり。

鐵道

總武鐵道線は東京より江戸川を渡りて來り、千葉に至り、更に佐倉を経て銚子に通ず。又、佐倉より岐れて佐原に至るものと、千葉より岐れて上總の東海岸一の宮に通ずるものとあり。

千葉 千葉は東京を距る十里餘、總武線の分岐點に當り、東京灣に臨む。千葉縣廳の所在地にして、又、醫學専門學校あり。横濱との間、通船の便あり。

木更津、館山

木更津、館山は共に房總半島の西海岸にあり。

木更津よりは毎日東京との間に、小蒸汽船の往來ありと雖も、沿岸遠淺にして、岸に近づくこと能はず。碇泊甚だ不便なり。館山は海路の交通やゝよろしく、東京よりの避暑客頗る多しといふ。富津洲は木更津の西南に當り、三浦半島の觀音崎と相對して、東京灣

の咽喉を扼し、砲臺の設あり。

佐倉 佐倉は印幡沼の南にあり。總武線及成田線の分岐點に衝る。近傍より佐倉炭を出す。佐倉炭は品質の良好なるを以て聞え、多く總武線によりて東京市に出す。年産額四拾貳萬圓に達せり。東北公津村には宗吾神社あり。領主堀田氏の虐政に堪えず、人民塗炭の苦を見るに忍びず、將軍に直訴し、刑場の露と消えたる佐倉宗五郎を祀れる社なり。印幡沼は形彎曲にして狹長に、周圍十六里あり。上古利根川河道の遺跡なりといふ。霖雨に際せば利根川の水、此の沼澤に逆流し、水害を與ふること多し。近來之を開鑿して東京灣に通ずるの計畫ありといふ。成效の嚙には沓に水害を除き得るのみならず、多大の良田を得ることなるべし。

銚子 銚子は總武線の終端驛にして東京を距る殆んど百哩、利

根川の吐口に位す。港頭は岩礁多く碇泊不便なりと雖も、本州東岸は、要港に乏しきを以て、亦一の要港として數へらる。其の銚子縮は百七拾餘萬圓の産額あり。醬油は野田と相並びて其の醸造盛に、近來益研究を重ね、繁盛に赴きつゝあり。東、犬吠崎は岩礁の岬角にして舟行頗る危険に、燈臺の設けあり。

九十九里濱 九十九里濱を説くには、少しく犬吠岬につきて述べざる可らず。もと犬吠岬は岩角の小島なりしが、土地の緩緩隆起と利根川の沖積土とのために、關東平野を形成し、犬吠岬に連接するに至りしものにして、太平洋より來る荒浪は其の硬岩のため、に南北の沿岸を洗ひて、白砂の沿岸を作りたるものにして、常磐の沿岸及九十九里濱之なり。九十九里濱は犬吠岬と大東崎との間をいふ。鯨の漁獵頗る盛にして、他府縣に比し嶄然一頭地を拔

けり。乃ち其の産額七百餘萬貫に達せり。鯉、鮒等之に亞ぐ。但諺に鱸様、鯛殿の語あり。以て漁獲物が此地の富の主源たるかを知るに足るべし。抑も犬吠岬近海は暖流と寒流との接觸點なるが故に、魚族饒多、此の盛大を呈するは、偶然にあらざるなり。

佐原 佐原は成田線の終端驛にして、利根川に臨み、水陸交通の便に富み、商業稍盛なり。

香取 香取は香取神宮所在地として、其名高し、神宮は經津主神を祭れるものにして、日本最古社寺の一なり。境内莊殿、頗る神々し。

主要なる設問

千葉縣の位置、地勢、

利根川の河流としての價值、

河流と人生との關係、

縣下の交通、

印幡沼掘削工事の必要、

九十九里濱の成因、漁業、

千葉縣下旅行の順序、

一 利根川の河流としての價值を説き、平野と人生との關係に及ぼすべし。

一 好漁地としての九十九里濱につきては、殊に注意して教授すべし。

一 燈臺及九十九里濱漁業の繪畫を準備すべし。

埼玉縣(武藏の一部)

主眼

埼玉縣地理の大要を紹介し、殊に麥、甘藷の產地としての本縣を理解せしめんとす。

教材

位置

埼玉縣は東京府の北に連り、千葉縣とは江戸川を夾みて西北に連れり。北境は利根川を以て限られ、以て群馬縣との境をなせり。東部一帯の地は關東平野の要部を占め、土地平かなれども、西部の地は秩父の山地にして、富士帶に連り、甲信と境を接す。

鐵道

東京より西北に向へる鐵道は、浦和を過ぎ、大宮にいたりて、奥州線と高崎線とに分る。奥州線は之より北行し、高崎線は熊谷を経て群馬縣に入れり。

浦和

浦和は東京を距る六里、東京上野驛より五十分にて達す。人口約六千を有し、埼玉縣廳の所在地たり。舊と關東兵亂の衝に

當り、寂漠たる一小村落なりしが、縣廳所在地となり、東京との交通便利なるに及び、稍繁榮に赴きしも、尙一縣の主腦地としては、充實せざるの憾あり。

大宮

大宮は奥州線、高崎線の分叉點に位し、日に繁榮に赴きつゝあり。素盞鳴尊外二神を合祀せる氷川神社の大宮あり。境内頗る廣し。其の地名は之に起因せりといふ。

熊谷

熊谷は高崎線の一要驛にして、又、上武線の起點なり。熊谷直實の墓及熊谷寺等あり。

川越

川越は川越鐵道の起點にして、川越平の産あり。附近一帶甘藷の産額多く、四千二百萬貫に達し、東京及東北地方に輸送せり。其他本縣は農産物多く、全戸數の八割五分は農民に屬せり。

麥は産額百二十萬石に及び、我國中第一位を占む。多く東京に送

りて麵包、麥酒等の原料となせり。米、大豆、桑等順次之に並げり。秩父地方 秩父地方は、桑の栽培に適し、養蠶業頗る盛に、従つて機業大に行はれ、秩父絹、青縞等の産出を以て名高く、縣下織物の産額七百萬圓を超過せり。

荒川 荒川は源を秩父山中に發し、山地の諸水を集めて平野に出で、隅田川となりて東京市を貫き東京灣に朝す、此の川、舊と利根川に注ぎたりしが、流路の變遷により、全く別流となりたるものなり。

主要なる設問

埼玉縣の位置、地勢、

浦和繁昌せざる理由、

縣下の主要なる物産、

甘藷と東京地方との關係、

教授上の注意

一、浦和が縣廳所在地として比較的進歩せざるは、其繁榮を東京に奪はるゝ所以なることを説き、大都會の近傍にはこれと性質を同じくする大都會の發達せざる理由を知らしむべし。
一、甘藷及麥の産が如何に縣下の生民生活に影響するかを知らしむべし。

群馬縣(上野の全部)

主眼

群馬縣の地理を説き、殊に養蠶機業の盛況を紹介せんとす。

教材

位置 群馬縣は埼玉縣の西北に連り、北新潟縣、西長野縣等との

境は山岳相連りて土地高く、南は關東平野平野の一部を占め、土地平坦なり。

鐵道 高崎線は埼玉縣を経て來り、高崎市に達す。之れより前橋を過ぎ、東の方桐生を經ぎて栃木縣に通ずる両毛線あり。

桐生 桐生は機業甚だ盛にして、當地方の一中心地たり。織物中尤も世に知られたるは、羽二重及縞子等とす。一ヶ年の總産額一千萬圓に上り、精好京都西陣に伯仲せんとするの勢あり。多く女工を採用せり。其輸出向は悉く横濱に輸送し、内地向は東京、大阪、名古屋等に多大の販路を有せり。

前橋市 前橋市は東京を距る二十八里南部平野中、利根川の東に位し、人口三萬五千餘、群馬縣廳の所在地なり。舊と厩橋といひ、厩橋城のありし所にして、今は生糸の取引甚だ盛に、上州絹物集散

の大市場たり。縣内すべて養蠶業盛に行はれ、繭の産額二十餘萬石之を他縣に比するに、總産額としては、長野縣に及ばずと雖も、戸數に平均する時は實に海内第一たり。従つて生糸の産額三十萬貫を超過せり。生糸は該地方にて織物原料に使用するの外は、悉く横濱に輸送して北米地方へ輸出せり。

高崎市 高崎市は大河内氏の舊城地にして、高崎線の終端驛なり。東京よりの流車程三時三十分、両毛線及上武線此處に通じ、又信越線は高崎線に接續して、妙義山の東北を過ぎ、碓氷峠を越えて長野縣に入れり。斯の如く交通の要衝に當れるを以て、市街殷賑、機業の一中心地たり。人口三萬餘。

碓氷峠 碓氷峠は日本武尊東征の歸途、吾妻はやの史談を傳ふる處、古來信州に通ずる唯一の峻坂にして、要害たりしも、今は二十

六個の隧道を穿ち、アプト式によりて瀛車を進行せしめ、古の嶮坂も只車中一睡の夢の間に経過すべし。アプト式とは機關車に齒車をつけ、鐵軌の條間にも鋸齒状のものを附け、交に咬み込みて、逆退せざる様になしたるものなり。

妙義山 妙義山は白雲、金洞、金鶏の三峰より成り、白雲山腹には妙義神社あり。金洞山には四大石門あり。全山火山岩突兀、符立し、頗る奇觀を極む。こは水蝕作用の爲めに、脆弱なる岩石は流下し、硬質の岩石のみ残留して、斯る奇觀を呈したるものなるべし。豊州耶馬溪の絶景も同原因より成る。妙義山と共に著名なるは榛名、赤城の二山にして、併せて上野の三山と稱す。すべて奇岩怪石、絶景をなせり。榛名山は高崎の西北五里にあり、山上の榛名湖は風景畫くが如し、赤城山は高崎の東北八里に位す。

伊香保 伊香保温泉は榛名山麓に在り、含鐵塩類泉にして、夏季東京地方よりの浴客多し。

草津 草津温泉は白根山麓に在り。硫黄泉にして、皮膚病に効ありといふ。伊香保温泉と共に、浴客頗る多し。

主要なる設問

群馬縣の位置、地勢、

本縣主要物産の概況、

縣内の鐵路交通、

縣内の名邑、

三野三山、

温泉地としての伊香保、草津、

教授上の注意

一、往時の旅行と、現時の旅行とにつき、碓氷峠アプト式瀛車により

て想像せしむべし。

一、養蠶、機業の旺盛なるに就きては、生産と富との關係を諒得せしむべし。

一、風景の人生に對する影響を知らしむべし。

一、伊香保、草津が温泉地として繁昌するは、東京との關係密なる所以を了解せしむべし。

一、妙義山の絶景につきては其成因の一般を知らしむべし。

栃木縣(下野全部)

主眼

栃木縣の地理を説き、殊に名勝としての日光、銅山の摸式としての足尾を紹介せんとす。

教材

位置

栃木縣は群馬縣の東に連る。北福島縣との境、及群馬縣界の北部は山岳相連りて土地高く、南は關東平野の一部をなして、土地平坦なり。

鐵道

群馬縣より來れる鐵道、兩毛線は足利、栃木等を過ぎ、小山にて東京より來れる奥州線に會す。奥州線は之れより北行し、宇都宮を過ぎ、鬼怒川を渡り、那須野を横ぎりて福島縣に入る。

那須野

那須野は那須岳の裾なる高原にして、東西五里、南北八里、關東平野とは自ら地勢、水理を異にし、耕作未だ開けざる所多し。那須岳は那須野の北に峙ちたる火山にして、榛名、日光等と一條の火山帶をなし、近傍温泉多し。

足利

足利は兩毛線中の一要驛にして、渡良瀬川に枕み、織物業

盛に、機業の中心地として、桐生、八王子等と共に併稱せらる。所謂足利織と稱し、縮緬、紗、綾織、八丈絹等を主産とし、參百萬圓の産額あり。新田義貞、足利尊氏等の出てたる地にして、又、足利學校あり。今は僅に其遺跡を保存し、幾多の藏書を保管せり。應仁戦亂以降文學の餘脉を傳へしは、此の文庫の賚なりといふ。

宇都宮市 宇都宮市は東京を距る二十八里、奥州線及日光線の要衝に當り、人口三萬二千餘、栃木縣廳の所在地なり。之より西北、日光まで鐵道の便ありて、約二時間にして達す。

日光 日光には徳川家康を祀れる東照宮あり。家康の久能山に薨ずるや、後、こゝに改葬し、三代將軍家光武威を張るの政略よりして、天下諸侯の財を集めて社殿を造營せしめ、金色粲然、日光を見ざれば結構と云ふ勿れの俚言を生ぜしむるに至りたるものにし

て、其の山中には中禪寺湖、華嚴瀧等の絶景ありて、人工の美と、自然の美と相應じ、風色實に筆舌の外に絶す。故に遊覽を兼ねる養者常に絶えず。

中禪寺湖は日光山中、海拔四千四百尺の地にあり、周圍八里、山間の絶景名狀すべからず。湖水の一壁を破りて流下する所は華嚴瀧にして、直下百二十五間、幅八間餘、天涯を破りて落下するの狀、雄大云ふ可らず。

足尾銅山 足尾銅山は日光の西南に在り。面積二百萬坪、鑛床四十有餘、豊富なる黄銅坑にして、産出額一千萬斤に及び、我國第一の銅山たるのみならず、又世界第六の銅山たり。實に我國の一大寶庫と云つべきなり。近傍の足尾は山間なれども、之が爲めに繁昌せり。然れども、設備の注意不十分なりしが爲めに、四近の山林

を緒にし、屢々水害を醸し、下流に鑛毒を流して、肥沃なる多くの良田を不毛に歸せしめたるを以て、鑛毒問題の弊害しきに至れり。

主要なる設問

栃木縣の位置、地勢、

縣下の鐵路并に之に沿へる著名の都邑、

關東平野と那須野との比較

群馬縣と共に温泉多き理山、

縣下の重要物産、

足尾銅山の概況、

日光地方遊覽の順序、

教授上の注意

- 一、本課に入るには、必ず群馬縣を復習すべし。
- 一、那須火山帯の概要を摘示するの要あるべし。

- 一、足利を説明するには、足利尊氏と連絡し、且つ該地機業の概況よりして、縣下機業界の狀況一般に及ぼすべし。
- 一、日光を説くに當りては、徳川氏内治政策の大要を知らしむべし。
- 一、足尾銅山につきては、銅山の摸式として稍詳細に説明すべし。

茨城縣(常陸及下總の一部)

主眼

茨城縣の地理を説き、殊に堰塞湖の摸式としての霞ヶ浦を紹介せんとす。

教材

位置

茨城縣は利根川を境として、千葉縣の北に連り、西、栃木縣東半の水は、多く本縣に入りて、太平洋に注ぎ。北は漸く山多く福

島縣の境に連れり。

鐵道 東京より東北に向へる鐵道、常盤線は千葉縣を貫き、利根川を渡りて來り、土浦を経て、筑波山を西に眺めつゝ進み、西、兩毛線に接續して來れる水戸線に、友部驛にて會し、更に水戸よりは濱街道に沿ひ、義家の古歌を以て名高き勿來を過ぎて、福島縣に入れり。土浦 土浦は常盤線の要驛にして、後に筑波山を控へ、前に霞ヶ浦を迎ふ。市街櫛比、粉壁相望み、霞ヶ浦沿岸小蒸氣船の往來あり。此の地方は有名なる菘豆アサマメの産地なるを以て、醬油の原料頗る豊に、醸造家の多きこと野田に亞げり。縣下醬油全産額百萬圓を超過せり。

霞ヶ浦 霞ヶ浦は海底の緩慢隆起と、海波の土砂を吹き寄するとにより、海の一部を堰塞して成りたるものにして、周圍三十六里、面積七方里、我國第二の大湖なり。湖中淡水産の魚族多く、小蒸氣船常に沿岸を往來せり。東に北浦あり。狹長にして、周圍十五里、二湖の水、利根川によりて相通ぜり。

鹿島 鹿島は北浦の東にあり。武甕槌神を祀れる鹿島神宮を以て名高し。神宮は利根川を夾んで、迤に下總の香取神宮と相對し、共に日本最古社の一たり。

筑波山 筑波山は山甚だ高からずと雖も、群山の陣頭に進みて、平野の中に屹立し、西の方富士山と相對して、王城の鎮をなせるの觀あり。山頂嶮峻、岩石突兀、眺望濶達なり。

結城 結城は水戸線に沿ひ、結城紬を以て名高し。結城紬は主として、緋に織り、染色の鮮麗高尙を以て名聲を博せり。木綿は結城木綿の外に、常陸木綿あり。常陸木綿は隣縣栃木産の眞岡木綿

と共に總稱して眞岡木綿といふ。もとは該地方産出の棉花を用ゐたりしも、今は多く印度棉花を使用せり。光澤の華麗と品質の堅牢とを以て人に知らる。縣下織物の總産額九拾萬圓に上れり。水戸市 水戸市は徳川三家の一なる水戸家の舊城下にして東京を距る約三十里、常盤線の要驛にして那珂川の下流に位す。人口三萬餘、茨城縣廳の所在地たり。其の常盤公園は徳川齊昭の創設せし所、園内梅樹多く、壯嚴にして金澤の兼六公園、岡山の後樂園と共に日本三公園の一と稱せらる。那珂川の口に臨みて湊あり。水戸市に對する要港とす。其の近傍は宏大無限の漁場にして、鯉、鮪、鯛、鰻等の産額多く、總額百五拾萬圓に達せり。

太田 太田は水戸の北にあり。其の間太田鐵道開通せり。此地方は葎の産多く、水戸煙草の名あり。北方の山地よりは寒水石、花崗石等を産す。

主要なる設問

- 茨城縣の位置及地勢、
- 霞ヶ浦の生因、
- 縣下の鐵路并に名邑、
- 縣下の重要物産、
- 縣下旅行の順序、
- 水戸氣風と光國卿の遺意、
- 沿岸地方に漁業の盛なる理由、

教授上の注意

- 一、結城紬の標本を準備すべし。
- 一、水戸と前橋とは東京より同距離にあることに注意せしむべし。

一霞ヶ浦の成因を説くに當りては湖水の成因の一般を知らしむべし。

一水戸の氣風と光國齊昭二公の遺意を知らしむべし。
一筑波山が富士と並稱せらるゝは平野の間に立ちて、人目を牽くに基くことを理解せしむべし。

關東地方概要

主眼

既に教授せし關東地方の概括的知識を與へんとす。

教材

山脈

富士帶

富士帶は東西より蟠走せし、兩山系の間に激烈なる噴

出をなしたるものにして、富士山盟主たり。乃ち北は甲信の境に走り、南は伊豆半島を連れて、南洋諸島に至る。箱根山は此火山帶に屬する休火山にして、關東地方の西境を限り、舊時は茲に關所を設けたりき。關東、關西の名呼は之に始まる。

阿武隈山脈 阿武隈山脈は北より來りて、北部に達し、筑波山に終り、其西南には足尾山脈などありて、一帶の山地相連れり。

河流

利根川 利根川は両毛の地に發し、關東平野の中央を流れて、銚子港に注ぐ。灌溉、運輸、交通等の便を與ふること多く、實に關東平野の大動脈たり。支流、江戸川は東京灣に朝す。

馬入川 馬入川は甲斐に發し、神奈川縣の中部を、南に貫きて、相模灣に注ぐ。

鐵道 東海道鐵道線は東京新橋より發し、東海道に沿ひ、西に走り、神奈川を貫き、箱根の峻嶮を避け、酒匂川の流域を上りて、静岡縣に入る。中途大船よりは横須賀へ支線を出す。

甲武鐵道線 は東京飯田町より發し、西、八王子に達し、官設中央東線に接續す。

日本鐵道高崎線 は東京上野より發し、浦和、大宮等を経て、高崎に達し、官設信越線に接續す。

日本鐵道東北線 日本鐵道東北線は一に奥州線と稱し、高崎線と起點を同ふし、大宮より分れて、宇都宮を過ぎ、奥州地方に向ふ。宇都宮よりは日光に通ずる日光鐵道線あり。

常盤線 常盤線は東京より東北、土浦を經、水戸を貫き、東海岸に沿ひ、奥州地方に向ふ。水戸よりは太田に通ずる太田鐵道線あり。

両毛鐵道線 両毛鐵道線は高崎より、東前橋、桐生、足利等を経て、東北線に合し、一方水戸線に接續す。

總武鐵道線 總武鐵道線は東京本所より、東、千葉をへて、銚子に通ず。千葉よりは房州東岸に通ずる線路あり。

農産 此の地方は平野廣く、土地肥沃なるを以て、農産物の産額全國第一に位す。乃ち米は全國の産額四千餘萬石に對し、五百餘萬石、麥は二千萬石に對し、五百萬石、大豆は三百五十萬石に對し、約百萬石に達せり。

鑛産 足尾の銅を主なるものとし、其他には著しき鑛山少し。

水産 沿岸一帯は漁獵の利甚だ多く、特に千葉縣の鰯、鯛、鱈等は著しきものなり。又東京灣の海苔は日本第一とす。

工藝製作品 山間の地方は土地桑柘の栽培に適するが故に、養

蠶業頗る盛にして、特に群馬、栃木の二縣著し。繭の産額全國の二百五十萬石に對し、七十五萬石に達す。従つて生糸の産額夥しく、横濱に送りて海外に輸出するの外は、該地方絹織物の原料となせり。絹織物を以て名高きは八王子、地方及群馬、栃木二縣地方を第一とす。

主要なる設問

關東地方主要なる山脈の走向、并に河流、

縣廳所在地、并に管轄區域、

主要なる鐵道線路、并に著名なる都邑、

市制を布きたる都會、

主要産物の概況、

教授上の注意

一、關東、關西人士の氣質相違の點に注意せしめ、且つ考究せしむべし。

一、人口稠密なる所以を考究せしむべし。

一、全國富の中心地たる所以を説き、副産事業の必要に及ぼすべし。

第三 奥羽地方

主眼

奥羽地方を學ぶに必要な大体の觀念を與へんとす。

教材

奥羽地方とは、本州の東北部、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後の七國をいふ。行政上、福島、宮城、岩手、青森、山形の六縣に分つ。

此の地方は、關東地方の北に連り、東は太平洋に臨み、沿岸の屈折少く、僅に陸前の東南に牡鹿半島の突出して、松島灣を擁するものあり。

るのみ。西は日本海に臨み、之亦沿岸の屈折少く、僅に羽後の北部西海岸に男鹿半島の突出せるものあるのみ。北は東に下北半島西に津軽半島突出して青森灣を抱き、潮流急なる津軽海峡を隔て、北海道本島に對す。

中央山脈は陸奥恐山に起り、八甲田山等を起して、此の地方を南北に貫走し、以て地勢を東西に分てり。故に又、一に中央分水山脈の稱あり。中央山脈の東には、北海道襟裳崎に陷没して、陸中の早池峯に起りて、南に並走せる北上山脈あり。一亘松島灣に陷没して、阿武隈山脈となり、尙南に走りて常陸の筑波山に終れり。中央山脈と北上山脈との中間平地は所謂南流せる北上川の流域にして、頗る廣く、又中央山脈と阿武隈山脈との中央平地は北流せる阿武隈川の流域にして、其の河口は南北相對し、其の流域は仙臺市を中

心として相連り、所謂奥羽平野をなせり。

中央山脈の西を南に並走せるは鳥海火山帯にして、陸奥の岩木山に起り、鳥海山を連ねて、南に入れり。又男鹿半島の寒風山より起りて、飛鳥を連ねて南せる、寒風火山帯あり。西の斜面を流れて日本海に注ぐは、能代川、御物川、最上川等にして、之等の流域は稍廣き米産地をなせり。

面積四千二百五十方里、其の廣袤關東地方に比して二倍に餘れども、人口甚だ疎に、僅に四百八十萬、關東地方の八百萬に近きに比して、僅に其の半數餘に過ぎず。即ち一方里千百二十餘人にして、北海道を除いては、我國中人口の尤も疎なる地方とす。

諸川の流域は地味肥沃、米の産額多く、所謂奥羽米、出羽米と稱するもの之なり。山地には銅、銀等の産出多く、特に秋田縣を以て第一

とす。東部岩手縣、宮城縣、青森縣地方は牧畜業盛に行はれ、良馬を出すこと多し。所謂南部馬と稱するもの之なり。南部福島縣地方は養蠶業頗る盛にして、繭生糸の産出夥し。

主要なる設問

奥羽地方の位置、地勢

主要なる山脈の方向

諸大河の流向

主なる平野并に其の産物

奥羽地方の産業一般

教授上の注意

一、山脈の走向、河流の方向は、地勢を知るの基を爲すを以て、詳密に教授すべし。

一、奥羽地方は日本海沿岸と、大平洋沿岸とにて、地勢に二大區別

あることを注目せしむべし。

一、面積の廣き割合に、人口疎なる理由に就きて、研究せしむべし。

福島縣(磐城の大部、岩代)

主眼

福島縣の地理を説き、特に養蠶製糸の盛況、并に火山噴火の一例としての磐梯山を紹介せんとす。

教材

位置

福島縣は、栃木、茨城二縣の北に連り、東部には阿武隈山脈南北に亘り、中部には中央山脈之と並走し、西、新潟縣北の一部山形縣との境、亦山多く、阿武隈川は中央、阿武隈二山脈の間を北に流れて、宮城縣に入り、阿賀川は新潟縣境の溪谷を破りて西流せり。

鐵道 栃木縣を経て來れる鐵道、奥州線は阿武隈川の川筋にある白河郡山、福島等を貫きて、宮城縣に入れり。又、福島より分れて、山形縣に通ずる鐵道、奥羽南線あり。

福島 福島は東京を距る七十一里、板倉氏の舊城地にして、奥州線に沿ひ、阿武隈川に臨み、奥州街道中屈指の都會にして、人口二萬一千餘、福島縣廳の所在地たり。羽二重の産多し。此の地方一帯養蠶製糸の業盛なり。繭の産額は十八萬五千石、價額六百八十萬圓、一戸平均收繭額約一石五斗に達せり。生糸は十五萬貫に上り、多く横濱に送りて海外に輸出せり。蠶卵紙は五十三萬枚に達し、之亦多く横濱より海外に輸出せり。實に養蠶製糸は本縣富の原動力なりと云つべし。

猪苗代湖 猪苗代湖は殆んど縣の中央に在り。周圍十三里半、

湖水清澄にして、四周の翠巒倒影し、風景描くが如く、漁利多し。湖上漁船の往來頻繁にして、交通運輸の便を助くること多し。

磐梯山 磐梯山は猪苗代湖の北に聳ゆ。此の山は明治廿一年七月十五日、午前七時三十分、驟然破裂し、四近に大慘狀を被らしめたり。今其噴火の概況を記さんに、此の日風なく、天朗なりしも、拂曉般々たる鳴動を聞き、間もなく、激烈なる震動、及響音起り、山上よりは一條の水蒸氣、粉岩等柱狀をなして登り、十五回、若くは二十回の大破裂あり、此間僅に三分餘に過ぎず。間もなく濃厚なる灰は山麓に下りて、四方暗黒、呎を辨せざるに至り、噴出せし粉岩は粒狀となりて降下し、地盤の變じて、現狀を失ひし面積五方里、村落人家の破壊埋没せしもの百戸、死傷者五百餘人、牛馬の斃れしもの五十七頭に及べりといふ。

若松市 若松市は一に會津と稱し、松平氏の舊城地にして、猪苗代湖の西方に在り、郡山より新潟に通ずる岩越鐵道は、現時此の驛まで開通せり。人口約三萬、維新の籠城を以て名高く、市東の飯盛山は白虎隊の少年戦死の地なり。陶器、漆器の産多し。陶器は所謂會津焼と稱するものにして、専ら急須、土瓶の類を製し、八萬貳千圓の産額あり。其他素地を横濱に送り、同地にて、輸出品の給付をなすもの亦多しといふ。漆器は所謂會津塗と稱するものにして、海外に輸出するもの多く、産額四拾六萬圓に達せり。

鐵道 茨城を経て來れる鐵道、常盤線は縣の東部海岸地方を北に、平、中村等の名邑を過ぎて、宮城縣に入れり。平の近傍は石炭の産出多く、其質極めて佳良なり。産額四十四萬噸に達す。中村は相馬氏の舊城地にして、相馬焼を以て名高し。

相馬焼は地質の堅緻なると、耐火力の強きとを以て特色とす。種類は茶器は素より、花瓶、置物、雜品に亘り、製作せるが、每個描く所の馬は一種の雅趣と、筆勢を有し、器物の底に畫きしものは、水を盛るに及び、水面に浮出するの觀あり。之れ畫法によれるか、將た製作法によれるか、頗る巧なり。

主要なる設問

福島縣の位置、地勢

縣下の鐵道交通

縣下の名邑

蠶業の一般

陶器製作の概況

磐梯山破裂の慘狀

教授上の注意

- 一、本課に入るには、總論にある阿武隈川につきて、復習すべし。
- 一、福島と若松との位置上に於ける關係を推考せしむべし。
- 一、縣下の蠶業は富の原動力となれるものなれば、稍詳密の解釋をなすべし。
- 一、磐梯山噴火の慘狀を説明しては、一般火山噴出の慘狀を推知せしむべし。

宮城縣(磐城の一部、陸前の大部)

主眼

宮城縣の地理を説き、仙臺平野と仙臺との關係、及勝景としての松島を紹介せんとす。

教材

位置 宮城縣は福島縣の東北に連り、西、山形縣の境は山岳相連

り、北は北上川の流域によりて岩手縣に通じ、東部に牡鹿半島突出して石巻灣をかざる。

鐵道 福島縣を経て來れる二條の鐵道、奥州線、及常盤線は阿武隈川の北、岩沼にて會し、仙臺を過ぎて、岩手縣に入る。

仙臺市 仙臺市は東京を距ること約九十里、伊達氏の舊城地にして、奥州線に沿ひ、人口八萬二千餘、奥羽第一の都會なり。宮城縣廳、控訴院、第二師團司令部、及第二高等學校等あり。其の瑞鳳殿は政宗の廟所にして、輪奐の美、日光と併せ稱せらる。仙臺平、埋木細工を以て名高し。仙臺平は一に精巧織と稱し、品質の堅牢と、褪せざるを以て聲價あり。原料は該地方の生糸を用ふ。之れ此地方養蠶家は刈桑を用ひず、萬年木の桑葉に依れるを以て、糸質膠

性を帯び、自ら堅牢なるを以てなり。染料は真正の地藍を用ゆ。埋木細工は名取川、及廣瀨川に埋れたる材質を用ゆ、名取川の埋木は主として摺にして數百年來埋没したりしものなれば、木質堅緻、光澤の雅味掬すべく、多く諸器具を製作せり。廣瀨川の産は主として松にして、舊城背葉城に連續せる青葉山中の岩石内に含まれたるを以て、殆んど無盡藏たり。盆、卷、蓆、入、其他の文房具を製作せり。總産額參萬圓に達す。

此地の近傍は所謂宮城野にして、奥羽平野の中部を占め、土地肥沃、農産克く穰り、百三十餘石の米産額あり。此の平野は將來開拓を要する地積尙、甚だ多し。

松島 松島は仙臺の東北、松島灣中にあり。數百の島嶼、星羅し、島悉く巨巖ならざるなく、巨巖悉く老松の翠蓋ならざるはなく、實

に天下の絶景にして、日本三景の一と稱す。

北上川 北上川は中央山脈、北山山脈、中間の諸水を集めて南流し、石の巻にて海に潮す。和船は多く、盛岡の下流花巻より通じ、一の關より吐口まで、十里の間小蒸氣船の往來りて、運搬、交通の便を與ふることも多し。

石巻 石巻は北上川の川口にあり。上流の農産此の港に輸送するもの多し。

荻濱 は牡鹿半島の西岸に位し、縣下の要港とす。

金華山 金華山は牡鹿半島の東南端山雉の渡を隔てたる小島なり。此近海は親潮の勢力を逞ふする所なるを以て、金華山の内外、著しき氣候の差あり。故に金華山沖を以て、寒、暖二流の交代界とす。近海の鮪は仙臺鮪と稱し、上品ならざるも、漁獵頗る多し。

主要なる設問

宮城縣の位置、地勢、

縣下の鐵路、

仙臺平野と仙臺市、

縣下重要物産の概況、

著名の都邑、

北上川と本縣との關係、

教授上の注意

- 一、仙臺平野と仙臺市との關係につきて、推考せしむべし。
- 一、仙臺が奥羽の雄鎮たる地理上の原因を説明すべし。
- 一、松島を説くには、其の寫眞、繪畫を準備し、美的感情養成の資となすべし。
- 一、教具として、仙臺平、及埋木細工を準備し置くべし。

一、仙臺平の地質堅牢よりして、商品は其の雅致の外に、品質の堅弱が至大の關係を有するものなることを知らしむべし。

岩手縣(陸中の大部、陸前、陸の各一郡)

主眼

岩手縣の地理を説き、殊に釜石鐵山、及び三陸大海嘯の慘狀を紹介せんとす。

教材

位置 岩手縣は宮城縣の北に連り、秋田縣、及び青森縣との境は山脈相連り、東、日本海岸に近く、北上山脈、南北に走り、北上川中央を縦貫し、地形阿武隈地方と符合せり。我國中、長野縣と共に尤も廣き縣なれども、土地の割合に、住民甚だ少く、僅に一方里八百人に

して、北海道を除くの外、人口尤も疎なり。

鐵道 宮城縣を経て來れる鐵道奥州線は北上川の沿岸に沿ひ、

一關盛岡等を過ぎ、青森縣に入れり。

一關 一關は縣下南部の名邑にして、東一里、狐禪寺村より石巻まで小蒸汽船の往來あり。

平泉 平泉は一關の北方二里の地にあり。藤原清衡以下四世、居城の地にして、當時豪華の蹟今尙見るべきものありといふ。殊に中尊寺の金色堂の如きは、金色燦然、金色の名に背かず。平泉の北には、安部貞任が衣川の柵を構へし、衣川あり。

盛岡市 盛岡市は東京を距る百四十里、南部氏の舊城地にして、北上川に枕し、奥州線に沿ひ、人口三萬三千、仙臺以北第一の都會にして、岩手縣廳の所在地なり。鐵器の産多し。其主なるものは鐵

瓶にして、所謂南部鐵瓶と稱す。南部鐵瓶の特色とするところは、鑄造後三四年間は一種の方法を以て鐵器を除去して、市に賣ぐと湯を沸騰する際其の音響の他品と異なるにあり。其他茶釜、鋤釜等を産す。

岩手山 岩手山は盛岡の西北に在り。一に岩鷲山といふ。休火山にして高く雲表に聳え、其形富士に似たるを以て、又南部富士の名あり。

釜石 釜石は外南部(外南部とは北上山脈)に在り。鐵山を以て名高し。鐵鑛は多く磁鐵鑛にして、採掘法は所謂露天堀にして、徑八九寸の鑛を以て、穴を穿ち、火藥を用ひして破碎し、釜石工場にて製煉せり。附近亦鐵山多く、縣下の總産額四百餘萬貫に上れり。抑も我國は諸種の鑛山に富むと雖も、獨り鐵山に至りては、其數甚だ

少く、釜石鐵山を以て、我國第一とす。福岡縣下八幡鐵鑛所に送りて精練す。

明治二十九年三陸海嘯には、其被害釜石尤も多く、釜石六千の人口、過半は激浪の爲めに、捲き去られ、甚だしきは、一村悉くさらはれて、又一名の生存者なき所ありたり。死亡總計三萬人、到る所の田野を荒廢にし、家宅を破壊せり。海嘯は多く海中の地震に原づくものにして、慘鼻の歴史を遺すを常とす。

主要なる設問

岩手縣の位置、地勢、

岩手縣と福島縣との地勢比較、

鐵道の交通、

縣下の都邑、

南部鐵瓶の特質、

釜石鐵山の概況、

海嘯の原因、

教授上の注意

- 一 本縣の地勢と福島縣の地勢とを比較して教授すべし。
- 一 本縣著名の都邑は、多く北上川の沿岸にあることを知らしめ、河流と都邑との關係を推知せしむべし。
- 一 阿武隈川と北上川とが奥羽東海岸地方の動脈たる點に注目せしむべし。
- 一 釜石鐵山につきては、本邦鐵鑛の不足は文明の進歩に一障害を與ふることと、一朝事あるの日鐵器を外國に仰ぐを得ざるの不便あることを知らしめ、鐵鑛開掘の必要を知らしむべし。
- 一 三陸の海嘯につきては、其原因が最深海「タスカローラ」附近の陷

落地震にあることを説き、海嘯の原因の一般を了解せしむべし。

青森縣(陸奥の大部)

主眼

青森縣地理の大要を紹介せんとす。

教材

位置

青森縣は本州の北端にして、南、岩手縣及秋田縣の境は山多く、他の三面は海に瀕し、北は津輕海峽を隔て、北海道本島と相對す。中央山脈恐山より起り、南に貫きて、地勢を東、西二部に分ち、東を小南部、西を津輕地方といふ。小南部の北は下北半島斧狀をなして突出し、西の方津輕半島と相對して、陸奥灣を抱けり。

十和田湖

十和田湖は南境山中に在り。周圍約十六里、峻峯峨々として環繞し、湖水清澄鏡の如し。

鐵道

岩手縣を経て來れる鐵道、奥州線は八戸の西方を過ぎ、青森に至る。又之れより西南に向ひ、福島と分岐して北向せる奥州南線に合せんとする。奥羽北線は弘前を経て、秋田縣に入れり。

青森市

青森市は東京を距る百九十里、青森灣に臨み、奥州線の終點にして、函館との間には定期航海あり。人口二萬五千、青森縣廳の所在地なり。陸奥灣の東北隅、大湊には水雷團の設あり。

弘前市

弘前市は津輕氏の舊城地にして、奥羽北線の要驛なり。人口三萬二千、第八師團司令部の所在にして、津輕塗を産す。津輕塗は數層の彩漆を疊塗として、雲狀の花章を顯はしたるものにて、若狹塗に酷似せり。彼是相異なる所は、只金銀箔を用ゐざるにあり。縣下塗物の總産額貳萬七千圓に上る。

岩木山 岩木山は弘前市の西北に峙つ。休火山にして、其形富士に似たるを以て、津輕富士の名あり。

主要なる設問

青森縣の位置、地勢、

縣下の鐵路、

縣下の各邑、

大湊に水雷團を置かれし地勢上の理由、

津輕塗の特質、販路、

教授上の注意

- 一、教具として、津輕塗を準備し置くを要す。
- 一、本島最北部の縣として、北海道に對する位置、及び東京との關係に注意せしむべし。
- 一、八甲田山雪中行軍の事變を話し、當地の積雪の一般を理解せしむべし。

むべし。

- 一、青森より東京迄の鐵道線路に沿へる著名の都會を復習すべし。
- 一、水雷團の設置と海面防禦の必要を示すべし。

秋田縣(羽後の大部、陸中の一部)

主眼

秋田縣の地理を説き、殊に縣下鑛業の一般を、稍詳密に紹介せんとなす。

教材

位置

秋田縣は青森縣の南に、岩手縣と背中合せをなし、日本海に面し、沿岸に男鹿半島の八郎潟を包みて、突出せるあり。

鐵道

青森縣より來れる鐵道、奥羽線は能代川に沿ひて下り、能

代より南、八郎潟の東を經、更に秋田に至り、御物川の上流地方に向ふ。

能代川 能代川は東部山脈中より發し、西流して能代港に朝す。能代より大館まで、舟楫の便ありといふ。

御物川 御物川は東南山脈中より發し、西北流して土崎港に注ぐ。土崎より大曲まで船を通ず。

能代 能代は能代川の吐口、奥羽線の要驛にして、米及鐵物を積出す。其の春慶塗は能代春慶と稱し、技術は一家相傳にして、全地二三人士の手によりて製出せらるゝを以て、産額僅少に、且つ三ヶ年を經過せざれば販賣せず。縣下塗物の産額壹萬貳參千圓に達す。此地方は土質漆樹の栽培に適し、良好の漆汁を得るに適せり。これ漆業の發達する所以なり。

八郎潟 八郎潟は一に八龍湖、又は琴湖と稱し、周圍十五里、西方一條の水路外洋と通じ、西に男鹿半島の寒風山峙ち、風色頗る佳なり。湖の生因に就きて稽ふるに、男鹿半島はもと、寒風島と稱する一小島なりしが、能代川、及御物川の吐出する土砂、風浪のために、海の一部を堰塞して、寒風島と連り、以て男鹿半島をなし、八郎潟を生成せしものならん。寒風山は寒風火山帯の盟主にして、山上の秋色艶澁なり。

秋田市 秋田市は佐竹氏の舊城地にして、東京を距る百五十里、御物川の支流、奥羽線の要驛なり。人口三萬餘、秋田縣廳あり。秋田織、及黃八丈等の産出多し。秋田織は一に畝織と稱し、地質堅牢にして、雅致あり。黃八丈は秋田路の根を以て染めたるものにして、染色褪めず、價格低廉なるを以て著はる。縣下絹織物の總産額

拾參萬圓餘に上る。

本縣は頗る鑛産に富み、本邦第三に位す。乃ち銅は一千百萬斤、銀は六千三百貫の産出あり。

阿仁銅山 阿仁銅山は採掘特許坪數二百七十萬坪、而して分銅したる粗銅は、能代郡古河東雲製煉所に輸送し、丁銅銀となし、東京に送りて販賣す。

小坂銀山 小坂銀山は採掘特許坪數約四十萬坪、同山は今より五十年前一の岩石塊を地爐にて吹分け、銀六分を得たるを嚙矢とす。精銀は神戸に送りて清商に販賣す。

尾去澤銅山 尾去澤銅山は採掘特許坪數百二十萬坪、本邦有數の銅山たり。製銅は碓ヶ關より能代港に送り、同處より神坂に輸送す。

院内銀山 院内銀山は採掘特許坪數百十萬坪、産出頗る多く。

銀は東京に送りて販賣し、金は大阪造幣局に送りて、政府の需用に應ず。

能代川及御物川の流域は土地肥沃にして、農産克く穫り、所謂秋田米の産地なり。開拓を要する地域尙廣し、年産額百五十萬石あり。

主要なる設問

秋田縣の位置、地勢、

縣下の大河、

縣下の鐵道及名邑、

鑛業の一般、

漆業及機業の一般、

教授上の注意

一、地形、宮城縣と相似たるを以て、輪廓圖を畫き比較教授すべし。

- 一 縣下鑛業一般につきては、特に注意して教授すべし。
- 一 縣下は米産地として開拓の餘地あることに注目せしむべし。
- 一 東西岸地方と對照して授くべし。

山形縣(羽後の一部、羽前)

主眼

山形縣地理の大要を紹介せんとす。

教材

位置 山形縣は宮城縣と脊中合せをなし、秋田縣の南に連り、地形恰も袋の如く、北境に鳥海山あり。鳥海山は秋田縣との境に峙ち、鳥海火山帯の盟主なり。

最上川 最上川は縣の南部に發し、地形に沿ひて北流し、更に西

北に向ひて、酒田港に朝す。富士、球磨と共に、日本三急流の一たり。酒田より、糠野目、五十里の間船を通ずべしといふ。

米澤市 米澤市は最上川の上流にあり。上杉氏の舊城地にして、人口三萬二千あり。此地方絹織物及漆器の産多きは、實に舊城主の賜なり。米澤織は東京、京都、大阪及北海道を主なる販路とし、縣下絹織物産額貳百七拾萬圓に上る。

鐵道 福島より來れる鐵道奥羽線は米澤市を過ぎ、山形市を経て北方に進めり。

山形市 山形市は東京を距る九十里、人口三萬餘、山形縣廳の所在地にして、縣内第一の都會なり。

酒田 酒田は酒井氏の舊城地にして、最上川口に在り、開港場の一にして、日本海岸の要港なり。

此の近傍は平野大に開け、所謂庄内平野をなせり。土地頗る豊饒にして、米作に適し、縣下を通じて百五十萬石の産額あり。

羽前の三山 羽前の三山は庄内平野の東南に鼎の如く峙てり。北は羽黒山にして、南に東、西並び峙つは月山、湯殿山なり。各山頂には同名の神社を祀り、官幣又は國幣なり。山岳はすべて峻嶮にして、奇石に富み、湯殿山の如きは、殊に甚だしく、登山の行者は鐵鎖に縋り、鐵路に攀ちて、山頂に登るといふ。

主要なる設問

山形縣の位置、地勢、

縣下の鐵路及名邑、

米澤織の産額及需用向、

庄内平野と米作との關係、

羽前の三山と迷信との關係、

教授上の注意

- 一、山形縣の地形と、最上川の方向と相一致したる點に注意せしむべし。
- 一、米澤織の地質販路を知らしむべし。
- 一、庄内、平野の米作と富の度とを對照すべし。
- 一、羽前三山と迷信との關係を説きては、我邦人が自然崇拜の念に富めることを知らしむべし。

奥羽地方概要

主眼

既に教授せし奥羽地方の概括的智識を與へんとす。

教材

山脈

中央山脈 中央山脈は陸奥恐山に起りて南走し、此地方の脊梁をなし、地勢を東西二部に分てり。又之に沿へる中央火山帶あり。北上山脈 は陸中の早池峯に起り、東端部を中央山脈に並行して南走し、松島灣に没す。

阿武隈山脈 阿武隈山脈は北上山脈の陥没して盤城に上りたるものにして、東端を中央山脈に並行して南走せり。

鳥海火山帶 鳥海火山帶は陸奥の岩木山に起り、殆んど中央山脈に並行して南走せり。

寒風火山帶 寒風火山帶は男鹿半島の寒風山に起りて南走せり。

河流

阿武隈川 阿武隈川は中央阿武隈両山脈の間を北流して松島灣の南部に朝す。

北上川 北上川は中央北上両山脈の間を南流して松島灣の北部に朝す。

能代川、御物川、最上川 能代、御物、最上の三川は共に西斜面の大河にして、日本海に朝す。

鐵道

日本鐵道東北線 日本鐵道東北線は栃木縣を経て來り、阿武隈川の流域に沿ひ、郡山、福島を経て仙臺市に達す。之より仙臺平野を通じて、北上川の流域を上り、盛岡市を過ぎ、尙北に進みて青森市に達す。延長哩數 哩なり。

官設奥羽線 官設奥羽線は青森市より南、弘前市を経て能代、秋

田市を過ぎ、御物川の上流地方に向ひ、福島より米澤、山形両市を貫きて來れる線路に將に合せんとせり。

岩越鐵道線 岩越鐵道線は郡山より西、新潟市に通ぜんとするものにして、目下若松市まで開通せり。

物産

農産 仙臺平野は廣漠たる平野にして、仙臺米の産出あり。能代川及御物川の流域亦米産多く、秋田米の産地なり。最上川の下流は庄内平野にして、出羽米の産地たり。土地未だ充分に開けざるを以て、他日開墾充分なる日は、莫大の農産物を見るに至るべし。

鑛産 釜石の鐵山、平の石炭等は東部著名の鑛山にして、西部にては阿仁、尾去澤、小坂、院内等の銅、銀山等尤も著はる。奥羽地方は鑛

産に富めりと云ふべし。

工藝製作品

陶器 會津燒、相馬燒尤も著はる。

漆器 會津塗、能代春慶、弘前の津輕塗等克く人に知られたり。

織物 仙臺の仙臺平、秋田の秋田織、米澤の米澤織等尤も名あり。

奥羽地方は鑛産に富むも、工藝製作品は未だ發達せず。

第四 本州中部地方

主眼

本州中部地方を學ぶに必要なる大体の觀念を與へんとす。

教材

本州中部地方とは、本州の中央部にある、尾張、三河、遠江、駿河、伊豆、甲

斐、美濃、飛彈、信濃、若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡の十六國をいふ。之を行政上の便宜の爲め、静岡、山梨、愛知、岐阜、長野、新潟、富山、石川、福井の九縣に分てり。

此の地方は北は日本海に臨み、其中部に能登半島馬首の如く突出し、東に富山灣東北に佐渡島西南に若狹灣あり。南は太平洋に臨み、其東部に伊豆半島突出して、駿河灣を抱き、西部に伊勢海、三河灣等あり。

中部は北より來れる樺太山系と西より來れる崑崙山系との接觸にして、加ふるに富士帶の噴出により、本州を横斷せるを以て、山脉相錯雜して、本州中最も高峻なる地方とす。之を以て河流はすべて、此中央高地に發源して、四方に流下せり。乃ち太平洋に朝する河流の主なるものは、天龍川、大井川、木曾川にして、灌溉の利多きも、

後方に崑崙山系の脊梁を負ふを以て、年々洪水の害を蒙ること尠なからず。

鐵道

官設東海道線

東海道線は神奈川縣より來り、海道に沿ひて、静岡、豊橋等を過ぎ、名古屋にて海道に分れ、岐阜、大垣を経て、滋賀縣に入る。

關西鐵道線

關西線は名古屋より海道に沿ひ、西の方、伊勢路に入る。

分岐小鐵道線には豆相鐵道線、豊川鐵道線及武豊線等あり。

官設中央線

東線は八王子より來り、甲府を過ぎ、韭崎まで開通し、西線は名古屋より中津川まで開通せり。共に信州鹽尻にて接觸せしむる豫定にて、目下工事中に屬す。

官設信越線 高崎より碓氷峠をへて來れる同線は長野市を過ぎ、直江津に通ず。

分岐小鐵道線には篠ノ井線あり。

北越鐵道線 は直江津より東新潟の附近沼牟ヌムに達す。

官設北陸線 北陸線は滋賀縣米原より東海道線に分れて福井、金澤等を経て富山に達す。

小鐵道線には七尾、中越の兩線あり。

産物

農産 農産は濃尾平野、越後平野、及富山縣の地方を主とし、新潟縣にては二百七十萬石、愛知縣にては二百萬石、岐阜縣にては百萬石、富山縣にては百五十萬石に上る。

林産 林産は長野縣、及び岐阜縣の北部、静岡縣等を主とし、檜、樅、

松、杉等の産夥し。木曾の山林は殊に有名なり。

鑛産 鑛産は奥羽地方に比して少し、佐渡の金、越後の石油等を主なるものとす。

氣候

氣候は各地方其有様を異にし、日本海沿岸は概して、冬時西北風を受けて寒冷を感じ、積雪亦多し、冬季半年の間は、天氣朦朧として、晴天を見ること稀なり。之に反して太平洋沿岸は、北に山脉を帯び、

海岸は暖流に流はるゝを以て、氣候一般に温暖なり。海岸の氣候は此くの如くなるも、甲、信、飛、越の高原地方は、氣候寒冷にして、四月梅花を見るの地なり。

静岡縣(遠江、駿河、伊豆の大部)

主眼

静岡縣の地理を説き、殊に高山の模式、且つ火山としての富士山、并に縣下工業の概況を紹介せんとす。

教材

位置 静岡縣は神奈川縣の西南に連り、其東南部は山嶽多き伊豆半島突出して、駿河灣の東をかぎり、東北境には富士の秀峰聳えて、山梨縣と背中を合す。概して山勢漸く海に迫りて海岸の平地狭く、河流随つて急なり。

富士山 富士山は一に芙蓉峰(形芙蓉の花に似たるを以てなり)といひ、形圓錐状をなし、我國第一の名山たり。高さ一里に近く、近傍十三ヶ國より望見すべしといふ。夏季登山するもの多し。山に登るに随つて氣温、并に氣壓は低下し、山頂に達すれば盛夏の候、尙雪を存し、飯

を焚くに早く洩騰して、熱炎し難しといふ。氣温低下につれて、植物帶亦次第に變化するを見る。乃ち山麓には杉多く、登るに随つて灌木、虎杖、蘚苔となり、遂に一莖の植物をも見ざるに至る。此等の現象は温帶より寒帶に足を入ると同一の結果を見るを得べし。山頂には周圍一里餘の舊噴火口を有し、火口壁は劔峰、雷山等の八峰をなし、就中劔峰尤も高し。富士山はもと海中火山なりしが、徐々たる噴火につれて、溶岩を噴出堆積し、現時の秀形を成すに至りたるものなりといふ。富士帶火山脈の盟主たり。

富士山の麓には廣き裾野あり。之を富士の裾野といひ、建久四年曾我兄弟仇討の美談を以て名高し。此の邊多く三椏を栽培す。之れ駿河半紙の原料なり。駿河半紙は楮を使用するものに比し、

紙屑緻密、光澤美麗なり。又大宮附近にては流下の水力を利用し、富士山中、若くは天龍川附近の材木を原料として製紙せしが、近來斯業の益盛なると共に原料に不足を生ずるに至りしを以て、北海道の供給を仰ぐに至れり。東京市にて使用する新聞用紙の如きは多く此地の産を用ゆ、和洋紙を併せ、參百七拾萬圓の産額あり。

鐵道 鐵道東海道線は神奈川縣を経て來り、御殿場(東海道線中最
高の驛にして
海拔一千
五百尺)沼津を過ぎ、駿河灣の邊に出て、富士、大井、天龍の三大川を渡り、濱名湖口の鐵橋を渡り、愛知縣に入る。新橋より濱松迄の延長哩數百六十五哩なり、又沼津の東より伊豆半島に通ずる豆相鐵道線あり。三島を経て修善寺の近傍に至れり。延長哩數三哩なり。

濱名湖 濱名湖は元は海水湖にあらざりしも、足利時代明應の地震に湖堤崩れて海に通ずるに至れり。其處を今切といふ。今

は一大鐵橋を架し東海道鐵道其上を通ず。橋上の風色絶佳なり。

三島 三島は伊豆第一の都會にして、古の國府の地なり。其の官幣大社三島宮は社殿頗る莊嚴なり。

修善寺 修善寺は僧空海の修禪寺建立より地名となれり。源頼家の幽居せられし地にして、有名なる温泉あり。

天城山 天城山は伊豆の中部にありて、下田に至る天險なり。山中木材、及石材等の産出多し。沿岸は鱈の産額七拾五萬圓に達し、海道屈指の漁獵地なりとす。

下田 下田は伊豆の東南隅にあり。黒船來泊を以て名高し。

熱海 小田原より人車鐵道に乗じて南すれば熱海に達す。熱海は温泉及海水浴場を以て名高し。温泉は間歇温泉にして、晝夜六回時を定めて噴出す。熱海の名は蓋し之に始まる。

駿河灣の邊りは頗る風光に富み、田子浦、三保松原、久能山等名高し。田子浦は西に富岳を望み、南は遠く南溟に入る。三保松原は一帶の砂礫に老松翠葉碧水に映じ、北に富士の秀峰を望む。又久能山は三保松原の西南にありて、徳川家康の祠あり。

清水港 清水港は三保松原東北に突出して、港をなす。開港場の一にして、縣下産物の輸出口なりとす。西方に静岡市あり。

静岡市 静岡市は東京を距る四十八里、東海道線に沿ひ、人口四萬二千、静岡縣廳の所在地なり。此地もと駿河國府の地、故に一に駿府といふ。淺間神社は市北賤機山シノノにあり。社殿頗る壯麗を極む。市の産物としては漆器、竹細工等あり。漆器は静岡漆器と稱し、近來著しき發達をなし、紙製漆器等あり。英露清地方を主なる輸出先とし、内地にては東京、大阪、四國地方を主なる販路とし、産額

六拾萬圓を超ゆ。

竹細工は日常の器具、裝飾品の類に至るまで、籐、竹等を以て製作す。其特長とする所は美麗と、組方の堅牢と、腐蝕の憂なきとにあり。米、英、佛等を主なる華主とし、内地にては京、阪、神、九州地方等に輸送す。年額約四萬圓に達す。

静岡市の近傍は、西南部なる濱松地方と共に茶の産額頗る多く、麥百五拾萬圓に達す。實に我國中第一位にあり。其の大部は横神兩港より主に米國に輸出す。

濱松 濱松は天龍川の西にあり。東海遺線に沿へる一要驛なり。

主要なる設問

静岡縣の位置、地勢、

小學地理 教師用 卷一 本州中部地方

富士山を高山としての觀察并に火山としての觀察

縣下の鐵路并に之に沿へる名邑

縣下の名勝

工業の概況

輸出茶と静岡縣との關係

教授上の注意

- 一 本課に入るには、兒童既得の富士山に就きて、問答すべし。
- 一 富士山温度の變移、并に植物帶の變化に就きては、地球の五帶と相關連せしめて教授すべし。
- 一 富士山は古來、神州精氣の鍾まる所として、國民の思想感情を支配せしこと頗る大なるものなれば、古人の詩歌吟咏等をも知らしむべし。
- 一 製茶は縣下の生命なることを、了解せしむべし。

一 富士製紙會社の製紙と新聞紙、兒童用書籍の原紙との關係を知らしむべし。

山梨縣(甲斐)

主眼

山梨縣地理の大要を紹介せんとす。

教材

山梨縣は静岡縣の北に位し、東京府、神奈川縣、埼玉縣、長野等の四境盡く山岳を繞らし、中に盆狀の平地あり。南境には富士山あり。山の北麓を繞りて湖水多く、山中、河口、西精進、木栖等の諸湖順次、東より西にあり。河口湖尤も大に周圍五里あり。山中湖の水は桂川となりて、縣の東部なる郡内地方を流れ、神奈川縣に入りて馬入

川となる。又郡内地方以外の水は、悉く富士川に集り、富士山の西麓を南に流れて、静岡縣に入れり。最上、球磨等と共に、日本三急流の一なり。畷澤より下は水運の便ありて、吐口まで十八里の行程半日にして達すといふ。

鐵道 甲武線に接續せる鐵道、官設中央西流は東京府より、小佛峠の隧道を過ぎて本縣に入り、有名なる笹子峠の長隧道を経て、甲府市に通じ、韭崎まで開通せり。八王子より此間の延長哩數六十一哩なり、此の鐵道は尙ほ延びて長野縣鹽尻に達して、篠の井線に接續し、西、名古屋より進みつゝある官設中央西線に接續せしむる豫定にて、目下工事中なり。

郡内は馬入川の上流桂川の流域地方をいふものにして、南北都留郡の地なり。此地は機業盛にして、絹織物の産額頗る多し。其郡

内織は多く、縦横縞にして、夜具地に用ひらる。又、甲斐絹は俗に海氣と云ひ、經緯、其色を異にせる絹糸を以て織りたるものにして、一半は海外に輸出し、他は内國各地に輸送す。縣下絹織物産額實に五百萬圓を超ゆ。

笹子峠は郡内の北を限り、中央東線は長さ三哩の長隧道を穿ちて通ぜり。

甲府市 甲府市は東京を距る三十五里、甲府平野の中央、官設中央東線の要驛にして、人口三萬三千、山梨縣廳の所在地なり。武田信玄居城の地を以て名高し。北方金峯山よりは水昌を産す。水昌は六角柱の結昌をなし、無色透明、清澄水の如し。又、黄紫、黒等の色のものもあり。

勝沼地方は甲州葡萄の本場にして、斯業頗る盛なり。多く東京地

方に輸送す。又葡萄酒の原料となすもの多し。

身延山 身延山は縣の西南部にあり。老杉蔚蒼にして、日蓮宗の總本山久遠寺あり。日蓮上人の草庵を結びし所にして、建築頗る宏壯を極む。

主要なる設問

山梨縣の位置、地勢、

縣下の鐵路并に、豫定線、

著名の郡邑、

産業一般、

教授上の注意

一本縣は四境山に圍まれ、富士川を下るの外、皆峠を越へざる可らざることを説き、山間生活の一般に及ぼすべし。

一昨年東京よりの鐵道甲府に通ぜし以來、甲州人民の生活に如何

なる影響を及ぼしたるかを知らしむべし。

一甲州と武田信玄の關係を説き、甲州人民の氣風に及ぶべし。

一甲州葡萄酒と葡萄酒とを説き、吾人の日常生活に關係する處を知らしむべし。

愛知縣(三河、尾張)

主眼

愛知縣の地理を説き、殊に東西風俗相違の境界點として、將た三府に亞ぐの大都としての名古屋市を紹介せんとす。

教材

位置 愛知縣は静岡縣の西に連り、南に渥美、知多の二半島突出して、三河灣を圍み、岐阜縣との境には木曾川環流し、濃尾平野の一

部をなせり。平野の地方は土地肥沃にして、農産饒に、米は所謂尾張米と稱し産額二百萬石、麥の産額九十萬石に達せり。

鐵道 鐵道東海道線は静岡縣を経て來り、豊橋より岡崎の南方を過ぎ、熱田、名古屋を經、木曾川を越えて岐阜縣に入れり。此間の延長哩數二百四十四哩又、豊橋より東北に向へる豊川鐵道線、知多半島の武豊に通ぜる官設武豊線、名古屋より三重縣に通ずる關西線などあり。

豊橋 豊橋は鐵道東海道線と、豊川線との分岐點にあり。もと吉田と稱し、松平氏の舊城下たり。平壤の戦に佐藤大佐の下に勇名を轟かしたる健兒は、此地方三河武士の後裔なりとす。

岡崎 岡崎は矢矧川に沿ふ。徳川家康出所の地たり。此の地方は三河木綿の産多し。三河木綿には生木綿と晒木綿とあり。

産額七百萬圓を越ゆ。

武豊 武豊は知多半島の東岸、官設武豊線の終點にして、港内水深く、我國開港場の一なり。

此の地方は酒、酢、醬油の醸造頗る盛なり。酒は過半は縣外に輸送し、一萬三千石の産額あり。醬油は産額百五十萬石に達し、遠く、臺灣、新嘉坡等に販路を有せり。

有松 有松は知多半島の北部に在り、有松絞の産出を以て、世に知らる。絞は價格廉なるを以て需用多し、此の邊は昔時海邊なりしが、地變のために、海を離るゝに至りたるものなり。

熱田 熱田は東海道線に沿ひ、名古屋を距る一里餘、伊勢路往復の汽船發着するを以て、市街頗る賑へり。熱田神宮は三種の神器の一なる草薙劍を安置したる所にして、官幣大社の一なり。

名古屋市 名古屋市は東京を距る約百里、徳川三家の一なる尾張大納言家の舊城下なり。東海道線其他鐵路交通の要衝に當り、後に濃尾の平野を控へ、人口二十八萬三府に亞げる大都會なり。愛知縣廳此處にあり。加藤清正の築きし名古屋城は名城の一にして、其天主閣は今尙存して離宮となり、一雙の金鯱は常へに光を放てり。第三司令部の所在地にして、高等工業學校、醫學專門學校等あり。市の産物としては織物、漆器、扇、七寶燒等あり。織物は二子織を主とし、絹織物等あり。縣下絹緋交織物の産額三百五十萬圓、木綿織物の産額壹千萬圓に達す。漆器は一閑張と稱する紙胎漆器にして、紙を貼り重ねて漆を塗りたるものにて、折敷、文庫、机等を出す。産額貳萬五千圓。扇は名古屋扇と稱し、産額貳拾萬圓を超え、海外にも輸出せり。

七寶燒は金屬にて地を作り。其の薄片を以て種々の型を作り、法瑯質の釉藥を溶解せしめたるものなり。年産額拾七萬圓に登れり。當市は京阪及東京の間にありて、東京風と京都風との境界點とされるを以て、人情稍々輕薄を免れず。

瀬戸 瀬戸は名古屋市の東北にあり。陶器の産出多く、所謂瀬戸物の本場なりとす。産額八拾萬圓に達し、海外に輸出せらるるもの其八分を占。然れども、近來同地の陶業は隣縣多治見の陶業盛大なるにつれて、其盛を奪はれつゝあるは遺憾の極みなりとす。此の地方は木曾山脈に屬する花崗岩の土質なるを以て、其の原料を得るに易く、なて陶業の盛を致したる所以なり。

主要なる設問

愛知縣の位置地勢

縣下の鐵道并に著名の郡邑

名古屋市發達せる所以

縣下産業の一般

瀬戸焼及木綿が世の需用多き所以

教授上の注意

- 一、名古屋と東京とを對照し其克く類似したる點を擧げしむべし。
- 一、瀬戸焼が有田焼に比して品質劣れると産額迄に超越せるは産業は中等以下に需用多きものに現ることを了解せしむべし。
- 一、名古屋市發達の所以を考究せしむべし。

岐阜縣(美濃飛彈)

主眼

岐阜縣地理の大要を紹介せんとす。

教材

位置 岐阜縣は愛知縣の北に連り、東は御岳、乘鞍岳等一帶の山脈を以て長野縣に境し、中央には位山ありて分水嶺をなし、以南の水は南流し、以北の水は北流せり。西南部は木曾川を隔て、尾張に連り、濃尾平野の一部をなせり。濃尾平野は關東平野に亞ぐの平野にして、長良川、楢斐川等流る。土地肥沃にして米の産額百萬石に上る。

鐵道 愛知縣を経て來れる鐵道東海道線は岐阜、大垣より關原の古戰場を過ぎ、滋賀縣に入れり。此間の延長哩數二百六十六哩又東南部には名古屋より來り長野縣に通ぜんとする官設中央西線は多治見を経て、中津川まで開通せり、此間の延長哩數四十九哩

なり。

多治見 多治見は陶業頗る盛に、之を美濃焼又は多治見焼と稱す。其産額百萬圓を超へ、我國中第一位を占む。多く日用品にして、清末等に輸出するもの多し。

岐阜市 岐阜市は東京を距る百里餘、東海道線の要驛にして、長良川に枕み、人口三萬、岐阜縣廳の所在地たり。市の産物としては、縮緬、岐阜提燈等あり。縮緬は岐阜縮緬と稱し、烏帽子縮緬、紋縮緬、山藪縮緬等あり。縣下絹織物の總産額貳百五拾萬圓に上る。岐阜提燈は優美なる特色を有し、近來海外人の好評を博し、産額參萬五千圓に上る。

長良川の鵜飼は實に夜間の一奇觀にして、一隻の漁船尙數十の鵜を放ちて、鮎を捕ふ。漁期に至れば此盛觀を見んがために、近國よ

り來り遊ぶもの多し。岐阜の東北地方は製紙の業、頗る盛に、所謂美濃紙の産地なり。總産額百拾六萬圓に上る。

大垣 大垣は戸田氏の舊城下にして、其天主閣今尙存す。大垣の西南養老山中には、名高き養老瀧あり。瀧の高さ九丈餘、幅九尺、絶壁の上より流れ落ち、下には只一枚の岩石のみにて、淵はなし。孝子の美談と共に、多く人に知らる。

高山 高山は飛彈川の上流地方に在り。山間の一都會にして、生糸、漆器(春慶塗)等を産す。

主要なる設問

岐阜縣の位置、地勢、

鐵道交通、并に郡邑、

産業一般、

多治見焼産額多き理由

教授上の注意

- 一、縣下陶業の盛なるは、地質上より論及すべし。
- 一、多治見の陶器を有田焼に比し、其産出額の多きは日常必需品にあることを知らしむべし。
- 一、關ヶ原につきては、東西勢力の分岐點に當ることを知しむべし。
- 一、濃尾震災の慘狀を語り、且つ地震の一般觀念を與ふべし。
- 一、山間の一都會として高山を照會すべし。

長野縣(信濃)

主眼

山國の模式としての長野縣地理の大要、殊に稍詳細なる縣下養蠶

業の一般を紹介せんとす。

教材

位置 長野縣は岐阜縣の東北に連れる大縣にして、岐阜、愛知、靜

岡、山梨、埼玉、群馬、新潟、富山の八縣、飛彈、美濃、尾張、三河、遠江、甲斐、武藏、上野、越後、越中の十國に接す。四境皆山脈を以て限られ、土地甚だ高く、縣内亦山岳多く、分水嶺斜十字形に交り、地勢自ら四部に分た

る。本縣は殆んど本州の中央にありて、土地甚だ高く、西境には御岳、乘鞍岳、西南部に駒岳、北部に戸隠山、東境に淺間山、東南境に八岳、赤石山等の高山あり。

淺間山 淺間山は有名なる活火山にして、八千二百餘尺、噴火口の直徑一千尺に達す。

川には千曲、犀、天龍、木曾の四大川ありて、前に述べたる四部の地方を灌溉せり。之等の川筋には景色のよき所多く、木曾川の寢醒の床尤も著はる、寢醒の床は寢醒の里に在り。木曾の急流、鬱々として流れ、奇巖怪石、兩岸に峙ち、奔、端激して、岸を咬み、白沫を飛ばし、風光爽快實に天下の絶景たり。

鐵道 群馬縣より碓氷峠の隧道を過ぎて來れる鐵道、信越線は上田、篠の井、長野などを過ぎて、新潟縣に入れり。高崎より長野までの延長、哩數七十一哩、篠の井より分れて、西南に向へる篠の井線あり。松本を過ぎて、鹽尻に通ず。

上田 上田は千曲川の川筋にあり。眞田氏の舊城地にして、繭生糸の取引頗る盛なり。

長野市 長野市はもと善光寺町といひ、東京を距る六十里、官設

信越線の要驛にして、人口三萬一千餘、長野縣廳の所在地なり。名高き善光寺は此地にあり。善光寺は天台宗の巨刹にして、皇極天皇の御宇開基なり。本尊は闍浮檀金の阿彌陀如來にして、善男善女の參詣するもの多く、長野市の繁榮は一に此の巨刹の餘影なり。近傍に川中島あり。武田信玄、上杉謙信と戦ひたる地なるを以て、名高く、千曲、犀の二川、こゝに會し、新潟縣に流れて、本邦第一の長流なる信濃川となる。

松本 松本は犀川の川筋にありて、官設篠の井線に沿へる都會なり。此地もと國府のありし所にして、生糸を以て聞ゆ。

此外一般に本縣は養蠶業盛に、我國第一たり。生糸は産額五十一萬貫を超ゆ。其の特質とする所は、糸質細太く、光澤に富み、類節強力、伸度繰返しの難易等に注意せるにあり。其取路は米國を主と

し、北陸地方、及東京府等にも輸送す。蠶卵紙は産額二百二十五萬枚に上れり、然して繭の特質は糸質白色、弾力強く、解舒容易に、糸量多きにありて、産額四十五萬石に上る。鹽尻の東南なる諏訪湖の近傍地方の如きは、製糸を以て、尤も著はる。

諏訪湖 諏訪湖は天龍川の水源にして、周囲五里許、一に鷲湖とし、遙に富士の秀峰を望み、湖畔の風光掬すべし。冬季に至れば湖面氷結して厚さ一尺乃至五尺に及び、人馬其上を來往するを得べし。天龍川は南頗して静岡縣に入る。上流地方の木材は之によりて運搬せり。

飯田 飯田は天龍川に沿へる、南部の都會にして、遠江、三河地方に通ずる要路に當る。堀氏の舊城地なり。又、木曾川の過ぐる木曾の地方は森林頗る繁茂し、檜、杉、松、樅等の産額夥し。

主要なる設問

長野縣の位置、地勢、

著名の高山、

鐵道交通、

著名の郡邑、

縣下養蠶業の一般、

縣下を小區域の平野に分つて説明せよ。

教授上の注意

- 一、縣下の地勢を説くには、克く四平よへらの配置、分水界等を圖解して授く可し。
- 一、縣下の交通が鐵道と河路によるの外は、悉く峻峻の坂路を超えざる可らざることを説き、山國の一般知識を與ふべし。
- 一、諏訪湖の氷結に伴隨して、氣候の一般を授くべし。

- 一、河中島合戦の大意を語るべし。
- 一、長野市の繁榮の諸原因を推究せしむべし。

新潟縣(越後、佐渡)

主眼

新潟縣の地理を説き、殊に深雪地としての高田及石油産地、佐渡金山等を紹介せんとす。

教材

位置 新潟縣は長野縣の東北に連り、日本海に臨める大縣にして、海岸直徑七十餘里、本州中尤も縦に長き縣なり。後面は山岳重疊し、東は鳥海火山帯の高山連り、中部には廣き越後平野あり。信濃川、阿賀川の二大川、此平野を流れて、日本海に朝す。越後平野は

長さ約四十里に達し、濕潤宜しきを得、地味肥沃、所謂越後米の産地なり。産額二百七十萬石に達すれども、米質良好と稱す可らざるを以て、肥後米と中央市場に角逐するは頗る困難なり。北海道、北陸、奥羽地方に輸送す。

信濃川 信濃川は千曲川、犀川の下流にして、流程百里、我國第一の長流なり。新潟に至りて海に朝す。吐口より小ヶ谷まで漁船の往來あり。又長野の南なる屋代よりは和船を通ず。然れども砂泥多く、水量多からず、一旦降雨あれば洪水氾濫して、四近に害を及ぼすことあり。

鐵道 鐵道信越線は長野縣を経て來り、妙高山の東方を過ぎ、高田を経て直江津港に至る。高崎より延長哩百十七哩なり、又之より東北に向ひ、柏崎、長岡を過ぎ、新潟附近沼垂に通ずる鐵道、北越鐵

道線あり。直江よりの延長哩數八十五哩岩越鐵道線は阿賀川の流域を上りて、福嶋縣若松に通ずる豫定にて、目下工事中なり。

高田 高田は信越線に沿ひ、上杉謙信の古城趾なる春日山に近く、冬季積雪尤も深き所として、現はる。之を以て家屋の構造異なりて、軒を長く垂る。即ち于人々軒下を交通せんが爲めなり。若し積雪に際し、向ふ側に交通せんとするには、雪下に隧道を穿つといふ。

直江津 直江津は信越線の終端驛、北越線の起點にして、船舶の出入頗る繁く、市況殷賑なり。西方、富山縣に到る途中に親不知の險阻あり。激浪岸を噛むの間を見て走り、洞穴に休み、復、親を顧るの暇なしとて此名あり。然れども今は其南方山中に新道開鑿せられ、此地を通ずるものなしと雖も、冬季積雪に際せば、新道は雪

深きを以て此を通ず、然れども今は波と岸との間稍遠く、昔時の危険なしといふ。

新潟市 新潟市は東京を距る百十里、信濃川の吐口に位し、北越線の終端驛沼垂とは、僅に信濃川に架したる長さ四百三十間の萬代橋を隔つ。人口六萬新潟縣廳の所在地なり。此の地は明治初年に開きたる、右き開港場なれども、港内北風を遮るものなく、且つ信濃川の吐出する土砂の爲めに、水淺く大船を泊するに適せず。故に劇風に際せば、碇泊の船舶は佐渡の夷港に遮く。随つて貿易未だ振はず。

彌彦山 彌彦山は新潟の西南に當る。一基の休火山にして、東麓には彌彦神社あり。

米 米山は柏崎の西南にあり。彌彦と同一帶の休火山にし

て、山上に米山薬師あり。

越後には石油を産する所多く、長岡の近傍尤も著はる。今や益々石油熱盛に、幾多の會社衍起し、地方人士の集りて、採掘に従事するもの甚だ多く八十萬石の産額あり。

小千谷 小千谷は長岡の南方にあり。此地方には越後縮、透綾等を産す。越後縮は苧麻を紡績して織りたるものにて、帷子の上々なるものなり。縣下麻織物の産額參拾萬圓に達す。

佐渡 佐渡は新潟の西方海上にありて、其形分銅の如し。島中の金北山の西南よりは金を出すを以て、古來名高し。採掘特許坪數百八十餘萬坪、製金は大阪造幣局に送り、製精の上貨幣に鑄造す。縣下の金産額約八十貫。西南なる相川は之が爲めに繁昌せり。東岸に、夷港あり。日本海の風浪を遮くるに適し、新潟港にある船

舶、風浪をこゝに避く

主要なる設問

新潟縣の位置、地勢、

縣下の鐵道、并に著名の都邑、

米産の多き理由、

石油井に金の産出現況、

開港場として新潟港の將來、

教授上の注意

- 一、石油の産出に就きては、米國トラストとの競争を説き、進んで露土亞より輸入する石油との對抗を説くべし。
- 一、佐渡の金山につきては、發掘の歴史を説き、徳川時代には「佐渡の土」と云へば金を意味せしことを説き、進んで現今の景況は、鹿兒嶋の金山に及ばざることを知らしむべし。

- 一 越後縮透綾と實際生活との關係を知らしむべし。
- 一 高田の積雪によりて北陸道の一般に雪多き現由を附説すべし。
- 一 直江津驛以西の交通不便を説き、又岩越線の豫定線を示し、線路開通後の本縣を想像せしむべし。

富山縣(越中)

主眼

富山縣地理の大要を紹介せんとす。

教材

位置 富山縣は新潟縣の西、岐阜縣の北に連り、三境悉く山又山にして、庄川、神通川等の諸川はすべて北流して日本海に注ぐ。立山は縣の東南部に聳ゆ、有名なる火山にして、山中硫氣を噴出する

こと多く、立山火山帯の盟主なり。幾多の奇峰屹立し、雄山最も高峻、山頂に雄山神社ありて、夏季登山するもの多し。

諸川の下流地方は灌漑の便よく、地味肥沃、所謂越中米の産地にして、百五十萬石に上り、一人二石の割合に當れり。加賀の前田氏が百萬石の大名として雄を天下に表はしたるは、其領内にかゝる良耕地ありしに由る。凡て伏木港を經由して北海道及露國等に輸出す。

富山市 富山市は東京を距る百八十里、神通川に枕み、官設北陸鐵道線の終端驛にして、前田氏の支藩前田氏の舊城地なり。人口六萬餘、富山縣廳の所在地なり。市は反魂丹其他の賣藥の製造甚だ盛にして、内國各地は勿論、近來外國輸出増加せり。其内地販賣は多く行商法に依れり。即ち自己が得意とする地方に出て、戸

毎に一袋宛の賣藥を預け置き、爾後毎年巡回して、新しきものと取換へ、服用せし分の代價を受く。されば一旦得たる得意先は、即ち財産にして、質入、借入、賣買、讓與等をなし得るものなり。

鐵道 富山市より西には、官設北陸鐵道線ありて高岡を過ぎ、石川縣に入れり。又高岡の東北伏木港より高岡を経て、南、城端に至れる中越鐵道線あり。此の線路は、南部の産米運輸の目的を以て、布設せられたるものなり。延長哩數二十二哩なり。

高岡市 高岡市は庄川に枕み官設北陸線と、中越線との交叉點にあり。伏木港とは鐵路のみならず、又水運の便あり。人口三萬餘、富山市に亞ぐの都會なり。此地は慶長年間、前田利長が富山より遷りて居城せしところ、當時從ひ來りし武器職工は銅器工業の元祖となり。其子孫相亞ぎ、今尙ほ高岡象眼の名世に高し。

伏木 伏木港は高岡市より汽程十七分、庄川の吐口に位し、西北に能登半島、東に生地^ノの岬突出せり。我國開港場の一にして、越中米の積出地たり。

主要なる設問

富山縣の位置、地勢、

縣下の鐵道并に都會、

縣下の産物、

賣藥業と吾人の實際生活、

教授上の注意

- 一、縣下諸川の水害甚だしき理由を説明すべし。
- 一、富山、直江津間鐵道布設の必要を説くべし。
- 一、富山の賣藥業と地方人民の實際生活との關係を知らしむべし。

石川縣(加賀能登)

主眼

石川縣の地理を説き、殊に北陸文武の中心地としての金澤市、及陶漆器業の一般につきては、較詳密なる紹介をなさんとす。

教材

位置 石川縣は富山縣の西に連る。其東南部は山多く、白山は高く岐阜縣との境に聳ゆ。白山は火山にして、白山火山帯の盟主たり。高峻にして山頂常に雪を戴くを以て、此名あり。北部は能登半島をなして、日本海に突出せり。

鐵道 富山縣より來れる鐵道北陸線は西南に向ひ、金澤、小松、大聖寺等を経て福井縣に入れり。富山より大聖寺迄延長哩數六十

五哩なり、又、金澤の東北にして、此線路に分れ、能登の七尾に通ずる七尾鐵道線あり。延長哩數二十三哩あり。

七尾 七尾港は前面に能登島を控へ、日本海沿岸の良港なれども、惜むらくは灣口岩礁多にあり。露領浦鹽斯徳とは尤も近く、日本海航路の定期船は此地より直航し、其他沿岸各地を航行する船舶の出入繁し。我國開港場の一なり。

金澤市 金澤市は前田氏の舊城地にして、東京を距る百六十里、北陸線に沿ひ、人口十萬餘、北陸第一の大都なり。石川縣廳、第九師團司令部、第四高等學校等あり。其兼六公園は水戸の常盤公園、岡山の後樂園と共に日本三公園の一に數へらる。金澤城の東南、百間堀を隔て、對岸にあり。綠樹密林、清泉潺湲、風色優美なり。蓋し、兼六名は、宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を兼ねるが故なり。

といふ。

産物としては、陶器、漆器、銅器、羽二重等あり。

陶器は九谷焼と稱し、三種あり。一は白磁に繪畫、紋繪等を施したるもの、一は硬質の土色を帯びたるもの、一は瀬戸風のもの之なり。乃ち縣下各所の窯にて製造せし素地を當市及小松、大聖寺等に送りて繪付をなせり。縣下金額參拾貳萬圓に上る。漆器は金澤漆器と稱するものにして、多く美術品を製し、拾四萬圓の産額あり。銅器は加賀象眼と稱するものにして、一時頗る盛なりしが、今は萎靡せり。産額拾參萬圓、羽二重は五百萬圓の産額に上り、多く海外に輸出せり。

小松、大聖寺 小松、大聖寺は共に縣下南部の名邑にして、陶業盛に、製品は金澤市に送りて、繪付をなす。小松の近傍には源義經の

誰何せられし、安宅の關趾あり。

山中 山中は大聖寺を距る二里半、温泉は鹽類泉にして、溫度百八十度を超ゆ。山中漆器の産地にして、轆轤製の糸目椀、薄木皿の類尤も多く、産額拾貳萬圓に上る。

山代 山代は大聖寺の東南一里餘、泉質は山中温泉に同じく、小松、大聖寺等と共に、九谷焼の窯元あり。

輪島 輪島は能登半島の北岸に在り。輪島塗を以て名高し。製品は茶、黒の二種に分れ、膳椀、吸物椀、平皿、壺皿、通盆、飯椀等とす。其特色は地質の堅牢なるにありて、産額四拾萬圓に達す。

主要なる設問

石川縣の位置、地勢、

縣下の鐵道交通、

開港場としての七尾灣

北陸文武の中心地としての金澤市、

縣陶漆器業の一般

教授上の注意

- 一、教具として、九谷焼、輪島漆器等を準備すべし。
- 一、工業地としての石川縣を理解せしむべし。
- 一、九谷焼と瀬戸焼とを對照し、需用少なき理由を示すべし。

福井縣(若狹越前)

主眼

福井縣地理の大要を紹介し、殊に羽二重の産出を詳説せんとす。

教材

位置

福井縣は石川縣の西南、岐阜縣滋賀縣等の北に連る。其西南部地方は若狹灣に臨みて、海岸の出入甚だ多く、漁業の利少からず。乃ち生物漁獲高は鱒の拾七萬圓を首とし、鮭拾萬圓、鱒七萬圓、鱈五萬圓等に亞ぐ。

鐵道

石川縣を経て來れる鐵道北陸線は、福井、武生を過ぎて、敦賀に至り、更に柳ヶ瀬峠の隧道を越えて滋賀縣に入り、湖東の米原驛にて東海道線に連る。米原、富山間延長哩數百五十三哩なり。

福井市

福井市は東京を距る百四十里、北陸線の要驛なり。越前家松平(結城)氏の舊城地にして、もと北の庄と稱し、柴田勝家の據りし所なり。人口四萬餘、福井縣廳の所在地たり。羽二重、奉書紬等の産額多く、取引はすべて當市にて行ふ。縣下絹織物の總産額實に壹千貳百貳拾五萬圓を超ゆ。市内には南朝の忠臣新田義貞

を祀れる別格官幣社藤島神社あり。

敦賀 敦賀港は三面山を繞らして、港内水深く、且つ風浪の虞なく、北陸第一の要津たり。我國開港場の一にして、日本海を越えて對岸なる露領浦鹽斯德へ汽船の定期航海あり。灣頭の金崎は新田義貞の據りし處、當時此處に薨じ玉ひし、尊良親王、及御弟恒良親王を社れる官幣中社金崎宮あり。

小濱 小濱は敦賀灣の西南にあたりて、小濱灣に臨む。酒井氏の舊城地にして、近傍に若狹塗の産あり。若狹塗は支那存星の遺風を摸擬したるものにして、紅、綠、青、黃、黑等の漆を以て塗り、箆、箆、棚、テール、手箱等を製す。産額拾四萬圓。

主要なる設問

福井縣の位置、地勢、

縣下の鐵道并に都會、

敦賀港と外國航路、

縣下産業の一般、

教材上の注意

- 一、羽二重の産出と外國貿易との關係を知らしむべし。
- 一、敦賀小濱と地海航路との關係に注目せしむべし。
- 一、琵琶湖疏水工事の設計の一般を示すも興味あるべし。

本州中部地方概要

主眼

先に教授せし、本州中部地方の概括的知識を與へんとす。

教材

山脉 山脉甚だ多く、且つ錯雜せりと雖も、大別する時は、樺太山系に屬する山脉と、崑崙山系に屬する山脉と、富士帶に屬するものとよりなり。之等の大山系の接觸點なり。

河流

富士川 富士川は山梨縣より來り駿河灣に朝す。峻溪を削りて流るゝを以て、水勢急に、日本三急流の一と稱せらる。

大井川 大井川は流程長からずと雖も、古來海道の要害として名高し。

天龍川 天龍川は諏訪湖に發源す。信州の木材運搬の利頗る多し。

木曾川 木曾川は濃尾平野の大動脈にして、且つ信州木材運搬の要路なり。

信濃川 信濃川は流程百里、日本第一の長流、流勢極めて速き富士川、古來海道の難所として名高き大井川、諏訪湖に發せる天龍川、

及濃尾平野の大動脈なる木曾川等にして、日本海に朝せるものは、日本第一の急流なる信濃川、富山灣に注げる神通川等とす。

木曾川の下流は土地遠く拓けて、所謂濃尾平野をなせり。又信濃川の下流も遠く拓けて、越後平野をなせり。共に中央を貫流せる両河の沖積土よりなれるが故に、土地肥沃、農産克く穰り、所謂尾張米、美濃米、越後米の主産地なり。山地は森林克く繁茂して、諸種の木材を出すこと多く、長野縣を第一とす。

氣候は各地、山脉の向背、海流の關係、土地の高度等を異にせるが故に、一樣ならず。中部の山脉は大陸性を帯び、寒暑の差甚だ多く、且つ寒季長く、暑氣暑く、梅桃櫻一時に開くの觀を呈する所あり。太

平洋沿岸は黒潮の影響を受け、且つ寒き北風來らずして、暖南風吹き來るを以て、氣候中和にして、且つ黒潮の蒸發氣の多量を含有せる南風中央の山脉に遮られて夏季雨多し。日本海沿岸は暖き南風は背部の山脉に遮られ、寒き西北風吹きすさび、日本海上の水蒸氣をして、背部森林中に氷結せしむるを以て、冬季雪深く、丈餘に達する所多し。

主要なる設問

中部地方の位置、地勢、

主なる河流及平野、

主要物産、

中央山地の寒暑の差甚だしき所以、

日本海沿岸の雪多き所以、

太平洋沿岸雨多き所以、

教授上の注意

- 一 此の地方中部の高峻なるは、諸山系の會合點にあることを、克く知らしむべし。
- 一 越後平濃と濃尾平野の正反對の方向に存在することに注意せしむべし。
- 一 往時大井川の渡しの様を語り、現時の鐵路と、其交通の進歩を知らしむべし。

小學地理 教師用卷壹終

明治三十七年三月廿五日印刷
明治三十七年三月卅一日發行

小學地理教師用卷一

定價金參拾錢

編纂者

教育圖書合資會社編輯所

不許複製

發行兼印刷者

大阪市東區唐物町四丁目八十番屋敷

教育圖書合資會社

右代表者 濱本伊三郎

發行所

大阪市東區唐物町四丁目八十番屋敷

教育圖書合資會社

